

(様式第 10)

熊大病医事第 105 号
令和 3 年 9 月 29 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人熊本大学長 小川 久雄

熊本大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
氏 名	国立大学法人熊本大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

熊本大学病院

3 所在の場所

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号	電話(096)342-2111
------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	⑦	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
5神経内科	⑥血液内科	7内分泌内科	⑧代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑩リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1脳神経内科	2移植外科	3形成外科	4リハビリテーション科	5病理診断科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50床	床	床	床	795床	845床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	327人	326人	521人	看護補助者	26.0人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	27人	26.9人	理学療法士	18人	臨床検査技師	65.8人
薬 剤 師	70人	0人	70人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	32人	2人	33.5人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	795人	36人	822.3人	臨床工学士	20人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	13.6人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	1人	事務職員	261.5人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	46.7人	その他の職員	40.8人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	78人	眼科専門医	9人
外科専門医	53人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	22人
小児科専門医	23人	脳神経外科専門医	9人
皮膚科専門医	14人	整形外科専門医	26人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	4人
		合 計	307人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (馬場 秀夫) 任命年月日 令和 3年 4月 1日

平成29年4月～平成30年3月まで、医療安全管理委員会委員
 令和 3年4月～ 医療安全管理委員会委員長 (熊本大学病院長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	632.46人	17.52人	649.98人
1日当たり平均外来患者数	1337.48人	79.60人	1417.08人
1日当たり平均調剤数			735.92剤
必要医師数			145.93人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			22人
必要(准)看護師数			375人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備	概要		
集中治療室	883 m ²	SR	病床数	30床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 246 m ² [移動式の場合] 台数 21台			病床数	16床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 53 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	591 m ²	SR	(主な設備)	汎用自動分析装置、電解質測定装置、HbA1c分析装置		
細菌検査室	137 m ²	SR	(主な設備)	自動塗布装置、薬剤感受性装置、自動染色装置		
病理検査室	518 m ²	SR	(主な設備)	自動固定包埋装置、自動染色装置、凍結切片作成装置		
病理解剖室	187 m ²	SR	(主な設備)	病理解剖台、臓器写真撮影装置、オートクレーブ		
研究室	112 m ²	SR	(主な設備)	クリオスタット、遠心機、オートクレーブ		
講義室	1,126 m ²	SR	室数	5室	収容定員	828人
図書室	2,524 m ²	SR	室数	2室	蔵書数	177,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	92.4 %	逆紹介率	113.1 %
算出根拠	A：紹介患者の数	13,109 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,061 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	824 人		
	D：初診の患者の数	15,085 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
吉村 麻里子	佐賀大学医学部附属病院 医療安全管理室	○	医療安全管理に関する見識を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
藤木 美才	ふじぎ法律事務所		法律に関する見識を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
馬見塚 まゆみ	がんサロンネットワーク		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
公表の方法 熊本大学ホームページによる公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

なし

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	19	56	アイカルディ症候群		1
2	筋萎縮性側索硬化症	88	57	神経細胞移動異常症		1
3	脊髄性筋萎縮症	14	58	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		9
4	原発性側索硬化症	1	59	レノックス・ガストー症候群		3
5	進行性核上性麻痺	45	60	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		1
6	パーキンソン病	236	61	結節性硬化症		14
7	大脳皮質基底核変性症	25	62	色素性乾皮症		1
8	ハンチントン病	1	63	先天性魚鱗癬		1
9	シャルコー・マリエー・トウス病	2	64	ファロー四徴症		1
10	重症筋無力症	219	65	両大血管右室起始症		1
11	多発性硬化症/視神経脊髄炎	159	66	急速進行性糸球体腎炎		5
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	55	67	抗糸球体基底膜腎炎		4
13	封入体筋炎	16	68	一次性ネフローゼ症候群		50
14	クローウ・深瀬症候群	2	69	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		1
15	多系統萎縮症	53	70	紫斑病性腎炎		10
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	110	71	先天性腎性尿崩症		1
17	ライソゾーム病	19	72	間質性膀胱炎(ハンナ型)		1
18	副腎白質ジストロフィー	2	73	オスラー病		10
19	ミトコンドリア病	25	74	閉塞性細気管支炎		2
20	もやもや病	100	75	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		8
21	プリオン病	3	76	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		1
22	HTLV-1関連脊髄症	22	77	フェニルケトン尿症		5
23	全身性アミロイドーシス	230	78	プロピオン酸血症		1
24	遠位型ミオパチー	3	79	メチルマロン酸血症		2
25	神経線維腫症	70	80	尿素サイクル異常症		3
26	天疱瘡	27	81	ポルフィリン症		2
27	膿疱性乾癬(汎発型)	16	82	肝型糖原病		5
28	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	83	進行性白質脳症		2
29	中毒性表皮壊死症	2	84	シトリン欠損症		1
30	高安動脈炎	31	85	ベーチェット病		104
31	巨細胞性動脈炎	3	86	特発性拡張型心筋症		124
32	結節性多発動脈炎	28	87	肥大型心筋症		75
33	顕微鏡的多発血管炎	54	88	再生不良性貧血		38
34	多発血管炎性肉芽腫症	12	89	自己免疫性溶血性貧血		2
35	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	20	90	発作性夜間ヘモグロビン尿症		9
36	悪性関節リウマチ	9	91	特発性血小板減少性紫斑病		46
37	パージャール病	4	92	原発性免疫不全症候群		2
38	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	93	IgA腎症		77
39	全身性エリテマトーデス	435	94	多発性嚢胞腎		50
40	皮膚筋炎/多発性筋炎	256	95	黄色靱帯骨化症		23
41	全身性強皮症	331	96	後縦靱帯骨化症		67
42	混合性結合組織病	61	97	広範脊柱管狭窄症		6
43	シェーグレン症候群	122	98	特発性大腿骨頭壊死症		35
44	成人スチル病	16	99	下垂体性ADH分泌異常症		21
45	再発性多発軟骨炎	1	100	下垂体性TSH分泌亢進症		6
46	筋ジストロフィー	36	101	下垂体性PRL分泌亢進症		49
47	脊髄空洞症	6	102	クッシング病		13
48	脊髄髄膜瘤	1	103	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		2
49	遺伝性ジストニア	1	104	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		54
50	脳表ヘモジデリン沈着症	1	105	下垂体前葉機能低下症		274
51	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	2	106	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		1
52	皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1	107	先天性副腎皮質酵素欠損症		15
53	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1	108	アジソン病		5
54	前頭側頭葉変性症	13	109	サルコイドーシス		96
55	先天性無痛無汗症	2	110	特発性間質性肺炎		93

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	肺動脈性肺高血圧症	37			
112	慢性血栓性肺高血圧症	19			
113	リンパ管筋腫症	8			
114	網膜色素変性症	20			
115	バッド・キアリ症候群	2			
116	特発性門脈圧亢進症	7			
117	原発性胆汁性肝硬変	10			
118	原発性硬化性胆管炎	63			
119	自己免疫性肝炎	27			
120	クローン病	119			
121	潰瘍性大腸炎	233			
122	好酸球性消化管疾患	5			
123	腸管神経節細胞減少症	1			
124	若年性特発性関節炎	10			
125	家族性良性慢性天疱瘡	1			
126	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	27			
127	特発性後天性全身性無汗症	3			
128	弾性線維性仮性黄色腫	1			
129	マルファン症候群	1			
130	エーラス・ダンロス症候群	2			
131	ウィルソン病	6			
132	ウェルナー症候群	1			
133	ブラダー・ウィリ症候群	3			
134	単心室症	1			
135	家族性地中海熱	2			
136	慢性再発性多発性骨髄炎	1			
137	強直性脊椎炎	8			
138	軟骨無形成症	1			
139	クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群	3			
140	後天性赤芽球癆	5			
141	エプスタイン症候群	2			
142	クローンカイト・カナダ症候群	1			
143	総排泄腔遺残	1			
144	胆道閉鎖症	8			
145	遺伝性膝炎	1			
146	IgG4関連疾患	9			
147	黄斑ジストロフィー	3			
148	好酸球性副鼻腔炎	19			
149	特発性多中心性キャッスルマン病	4			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料1. 一般病棟 イ (7対1看護)	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料3. 精神病棟 ハ (13対1看護)	・ハイリスク分娩管理加算
・救急医療管理加算	・後発医薬品使用体制加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算1(25対1補助体制加算)	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上)	・入退院支援加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間100対1急性期看護補助体制加算)	・入退院支援加算3
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上) (夜間看護体制加算)	・精神疾患診療体制加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・看護補助加算2(50対1)(精神病棟)	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料3
・無菌治療室管理加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・無菌治療室管理加算2	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室、新生児集中治療室)
・緩和ケア診療加算 個別栄養食事管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料2に係る加算(プレイルーム加算)
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科①)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料 注2の加算	・医療機器安全管理料1
・外来栄養食事指導料の注2	・医療機器安全管理料2
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・精神科退院時共同指導料2
・慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算	・在宅患者訪問看護・指導料
・糖尿病合併症管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料イ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ロ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ハ	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)
・がん患者指導管理料ニ	・BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)
・外来緩和ケア管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・遺伝学的検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・骨髄微小残存病変量測定
・糖尿病透析予防指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・婦人科特定疾患治療管理料	・HPV核酸検出
・外来放射線照射診療料	・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ニコチン依存症管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・療養・就労両立支援指導料相談支援加算	・検体検査管理加算(I)
・がん治療連携計画策定料	・検体検査管理加算(IV)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・国際標準検査管理加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・遺伝カウンセリング加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・薬剤管理指導料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・検査・画像情報提供加算	・時間内歩行試験
・電子的診療情報評価料	・シャトルウォーキングテスト

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科②)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胎児心エコー法	・無菌製剤処理料
・ヘッドアップティルト試験	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・人工臓器検査	・心大血管疾患リハビリテーション料の初期加算
・皮下連続式グルコース測定	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料の初期加算
・脳波検査判断料1	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・神経学的検査	・運動器リハビリテーション料の初期加算
・補聴器適合検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・全視野精密網膜電図	・呼吸器リハビリテーション料の初期加算
・ロービジョン検査判断料	・がん患者リハビリテーション料
・内服・点滴誘発試験	・認知症患者リハビリテーション料
・センチネルリンパ節生検(片側)	・集団コミュニケーション療法料
・画像診断管理加算1	・歯科口腔リハビリテーション料2
・画像診断管理加算2	・経頭蓋磁気刺激療法
・遠隔画像診断	・認知療法・認知行動療法1
・ポジトロン断層撮影	・精神科作業療法
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・CT撮影	・医療保護入院等診療料
・冠動脈CT撮影加算	・レーザー機器加算(医科)
・MRI撮影	・多血小板血漿処置
・心臓MRI撮影加算	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・乳房MRI撮影加算	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・人工臓器 慢性維持透析を行った場合1
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・導入期加算2
・外来化学療法加算1	・透析液水質確保加算
・連携充実加算	・慢性維持透析濾過加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科③)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工臓器療法	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・センチネルリンパ節加算	・胸腔鏡下弁形成術
・皮膚移植術(死体)	・胸腔鏡下弁置換術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術、骨悪性腫瘍手術	・経皮的僧帽弁クリップ術
・処理骨再建加算	・不整脈手術 4 左心耳閉鎖術 ロ 経カテーテル的手術によるもの
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る))	・経皮的中隔心筋焼灼術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・椎間板内酵素注入療法	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術(心筋リードの場合)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いる場合又は皮下植込型リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(その他のもの)
・網膜再建術	・経静脈電極除去術
・人工中耳植込術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・人工内耳植込術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・経皮的下肢動脈形成術
・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下肝切除術
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・生体部分肝移植術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・同種死体肝移植術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科④)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・高エネルギー放射線治療
・生体部分小腸移植術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・同種死体小腸移植術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・同種死体腎移植術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・生体腎移植術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・病理診断管理加算2
・人工尿道括約筋植込・置換術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯科外来診療環境体制加算2
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・歯科診療特別対応連携加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・医療機器安全管理料(歯科)
・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者)	・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算
・医科点数表第2章第10部手術通則第16号に掲げる手術(胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。))	・歯科治療時医療管理料
・輸血管理料Ⅱ	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ
・同種クリオプレシピテート作製術	・有床義歯咀嚼機能検査2のロ
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・咀嚼能力検査
・麻酔管理料(Ⅰ)	・咬合圧検査
・麻酔管理料(Ⅱ)	・精密触覚機能検査
・放射線治療専任加算	・がん患者リハビリテーション料(歯科)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・神経変性疾患の遺伝子診断	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	79
剖 検 の 状 況	剖検症例数 14 例 / 剖検率 6.6 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1 世紀日本の長期療養型疾患の歴史—ハンセン病・精神疾患・結核の比較統合的検討	野上玲子	病院	400,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
2 EPAを基盤とした段階的若手指導医養成プログラム開発研究	谷口 純一	病院	200,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
3 腎障害形成・進展における硫酸抱合型尿毒素の役割究明を機軸とする尿毒症抑制薬の探索	齋藤 秀之	病院	3,100,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
4 癌の生命予後規定因子CYLDの分子診断を突破口とした従来にない分子標的治療の確立	城野 博史	病院	2,400,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
5 細胞環境がもたらす代謝リプログラミングの解明に基づく肝発癌増殖進展の制御	佐々木 裕	病院	400,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
6 自己免疫性自律神経障害の「多様性」に関する多角的研究	中根 俊成	病院	3,800,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
7 臨床現場での多重課題における意思決定要因の解明	松井 邦彦	病院	200,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
8 胃癌間質の組織型別分子サブタイピングに基づいた抗ストローマ治療戦略の開発	石本 崇胤	病院	4,150,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
9 抗横紋筋抗体の病因論的自己抗体としての意義とPD-1ミオパチーの疾患概念の確立	中根 俊成	病院	200,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
10 革新的治療開発を目指した腸内細菌Fusobacteriumと腫瘍免疫の網羅的解析	馬場 祥史	病院	1,900,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
11 子宮がん自然発症マウスモデルを用いたがん発生を制御する上皮・間質の相互応答の解明	三上 芳喜	病院	300,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
12 拘縮と廃用性筋力低下の問題を解決に導く次世代型療養支援体系の構築	掃本 誠治	病院	100,000	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会
13 左室収縮能保持性心不全の病態解明と新規治療法開発に向けたトランスレーショナル研究	松下 健一	病院	613,463	①補 委 独立行政法人 日本学術振興会

13 件

小計 17,763,463円

14	PKG1 α ロイシンジッパーを介した動態制御の解明と心不全治療の応用	中村 太志	病院	1,116,230	補委	独立行政法人 日本学術振興会
15	鉱質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明	後藤 理英子	病院	1,682,317	補委	独立行政法人 日本学術振興会
16	骨髄異形成症候群における治療ターゲットとしてのSALL4高発現の意義解析	立津 央	病院	1,510,040	補委	独立行政法人 日本学術振興会
17	脳原発悪性リンパ腫における上皮間葉転換誘導因子の解析に基づく診断と治療への展開	牧野 敬史	病院	389,206	補委	独立行政法人 日本学術振興会
18	次元コーンビームCTの画質改善と位置照合精度の最適化	下東 吉信	病院	122,496	補委	独立行政法人 日本学術振興会
19	ヒト子宮および腎臓の発生に協調的に関与する遺伝子群の変異/欠損の同定	値賀 正彦	病院	1,824,930	補委	独立行政法人 日本学術振興会
20	消化器癌のバイオマーカー開発のためのmicrobiomeとエピジェネティクス解析	馬場 祥史	病院	3,988,840	補委	独立行政法人 日本学術振興会
21	冠動脈CTにおける流体練成解析法を用いた冠血流予備量比の基礎的・臨床的検討	幸 秀明	病院	1,349,989	補委	独立行政法人 日本学術振興会
22	脳機能・形態評価に基づく疲労関連小児疾患の治療法開発研究	上土井貴子	病院	1,829,358	補委	独立行政法人 日本学術振興会
23	浸透圧応答転写因子NFAT5の慢性腎障害進展における意義	泉 裕一郎	病院	985,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
24	HIV-1キャプシド構造タンパク質自壊と脱殻の新たな機構解明	天野 将之	病院	2,033,248	補委	独立行政法人 日本学術振興会
25	ケモカイン受容体多量体形成阻害機構解明によるHIV感染の病態解明と治療への応用	中田 浩智	病院	1,374,734	補委	独立行政法人 日本学術振興会
26	抗糖尿病効果を発揮する熱ストレス応答経路活性化の臓器および分子間相互作用	近藤 龍也	病院	1,100,074	補委	独立行政法人 日本学術振興会
27	活性化ストローマ細胞とのクロストークを介した炎症性発癌メカニズムの解明	三宅 慧輔	病院	1,098,670	補委	独立行政法人 日本学術振興会
28	膵癌における補体C5a受容体を介した癌と間質の相互作用に関する研究	高森啓史	病院	1,949,063	補委	独立行政法人 日本学術振興会
29	膵癌進展におけるTGF β -Hippoシグナルのクロストークに関する研究	近本 亮	病院	1,477,914	補委	独立行政法人 日本学術振興会
30	肝内胆管癌におけるCXCL12の肝転移促進機序の解明と革新的治療開発への基盤研究	増田稔郎	病院	1,026,724	補委	独立行政法人 日本学術振興会
31	microRNA-21の敗血症に対する制御活性を用いた新たな診断・治療法の開発	江嶋 正志	病院	230,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

18件

小計 25,088,833円

32	フェレット痕痕声帯線維芽細胞に対するプロスタグランジンE2の効果に関する研究	高村 晴香	病院	960,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
33	高次エピゲノム制御を標的とした難治性口腔癌に対する新規治療戦略の開発	廣末 晃之	病院	1,198,331	補委	独立行政法人 日本学術振興会
34	低血糖による糖尿病網膜症増悪におけるミトコンドリア由来活性酸素種の寄与解析	梶原 伸宏	病院	462,649	補委	独立行政法人 日本学術振興会
35	心臓CTにおいて造影剤が被曝へ与える影響の調査および被曝低減法の確立	木藤 雅文	病院	372,814	補委	独立行政法人 日本学術振興会
36	ドレブリン測定による肺癌診断法の開発と肺腺がんにおけるドレブリンの分子機能解明	猪山 慎治	病院	2,050,510	補委	独立行政法人 日本学術振興会
37	形質細胞特異的分子を標的とした多発性骨髄腫の治療開発	河野 和	病院	807,158	補委	独立行政法人 日本学術振興会
38	Mass cytometry によるPh-ALL微小残存病変の検出と診断への応用	徳永 賢治	病院	1,063,686	補委	独立行政法人 日本学術振興会
39	新規NASH誘導モデルマウスを用いたGPR43によるNASH発症抑制の検討	花谷 聡子	病院	1,334,481	補委	独立行政法人 日本学術振興会
40	ER陽性HER2陰性乳癌におけるFGFR1下流のシグナル伝達経路への影響	富口 麻衣	病院	1,776,828	補委	独立行政法人 日本学術振興会
41	脈絡膜新生血管におけるミクログリア亜種とアミロイドβの関係に関する研究	芳賀 彰	病院	900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
42	地域医療研修における研修医の成長とレジリエンスに関する多施設研究	佐土原 道人	病院	580,469	補委	独立行政法人 日本学術振興会
43	女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言:フィンランドとの比較研究	後藤 理英子	病院	240,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
44	ヘリコバクター・シネディの活性イオウ代謝を介した骨髄内潜伏感染機構の解明	末田 大輔	病院	1,882	補委	独立行政法人 日本学術振興会
45	直腸癌微小リンパ節転移検出による革新的直腸癌治療戦略の構築	宮本 裕士	病院	150,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
46	細胞外マトリックスの老化が解き明かすトランスサイレチンアミロイドーシスの真の病態	三隅 洋平	病院	1,464,220	補委	独立行政法人 日本学術振興会
47	新規尿中バイオマーカーロンビンの腎疾患診断・治療における有用性の検討	安達 政隆	病院	1,150,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
48	CREBとその転写共役因子CRTCによる動脈硬化発症・進展抑制機序の解析	井形 元維	病院	1,172,138	補委	独立行政法人 日本学術振興会

17件

小計 15,685,166円

49	飲酒喫煙が食道癌診療に及ぼすリスクの包括的評価における平均赤血球容積の意義	吉田 直矢	病院	1,221,126	補委	独立行政法人 日本学術振興会
50	難治性消化器癌のHippo pathway破綻による癌幹細胞能獲得の機構解明	林 洋光	病院	1,400,735	補委	独立行政法人 日本学術振興会
51	消化管癌・GISTに対するGLUT1阻害剤を用いた革新的治療法の開発	澤山 浩	病院	1,436,608	補委	独立行政法人 日本学術振興会
52	悪性脳腫瘍におけるポリグルタミン化制御による新規治療法の開発	篠島 直樹	病院	1,061,074	補委	独立行政法人 日本学術振興会
53	T1ρ mapping MRI評価と3次元運動解析に基づく早期膝OA診断の確立	中村 英一	病院	600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
54	Stat3を標的とした慢性炎症性関節炎および関節破壊制御	宮本 佳奈	病院	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
55	内分泌学的因子を包含した新たな子宮内膜癌の分類と新規治療戦略の確立	齋藤 文誉	病院	834,222	補委	独立行政法人 日本学術振興会
56	腫瘍随伴マクロファージの免疫学的動態の制御による卵巣癌に対する新規治療戦略の開発	本原 剛志	病院	803,791	補委	独立行政法人 日本学術振興会
57	遺伝子改変マウスを用いた頭頸部扁平上皮癌動物モデルの作成	伊勢 桃子	病院	703,640	補委	独立行政法人 日本学術振興会
58	大規模災害の避難者における健康被害の要因解明と新たな提言	笠岡 俊志	病院	1,786,208	補委	独立行政法人 日本学術振興会
59	胃癌の腫瘍間質を介した抗癌剤抵抗性メカニズムの解明	内原 智幸	病院	1,600,211	補委	独立行政法人 日本学術振興会
60	革新的治療法開発を目指した肝細胞癌におけるLOXの機能的役割の解明	梅崎直紀	病院	1,962,860	補委	独立行政法人 日本学術振興会
61	慢性炎症に起因するメタボライトを介したNASH肝癌の発癌メカニズムの解明	有馬浩太	病院	1,834,710	補委	独立行政法人 日本学術振興会
62	消化器癌大規模コホートをを用いたがん代謝を標的とする革新的新規治療の開発	小澄敬祐	病院	3,088,600	補委	独立行政法人 日本学術振興会
63	革新的バイオマーカー開発を目指した胃癌リンパ節転移診断ジーンシグニチャーの樹立	泉大輔	病院	2,809,395	補委	独立行政法人 日本学術振興会
64	ムーンライト解糖系酵素による脳アミロイドアンギオパチーの進行抑制機構の解明	井上 泰輝	病院	2,769,230	補委	独立行政法人 日本学術振興会
65	インスリン抵抗性及び分泌低下に対するマクロファージ増殖の病態生理学的意義の検討	山田沙梨恵	病院	815,991	補委	独立行政法人 日本学術振興会
66	自律神経障害を介した自己免疫性消化管運動障害の病態解明	向野 晃弘	病院	343,719	補委	独立行政法人 日本学術振興会

18件

小計 26,172,120円

67	二層検出器CTによる腎機能障害患者の低造影量プロトコル標準化へ向けた包括的研究	田口奈留美	病院	1,945,655	補委	独立行政法人 日本学術振興会
68	エピゲノム薬と環境因子の相互作用による肝臓治療の基礎的検討と臨床応用	長岡 克弥	病院	1,352,887	補委	独立行政法人 日本学術振興会
69	閉塞血管のない急性心筋梗塞(MINOCA)の診療実態及び病態の解明	石井正将	病院	1,355,786	補委	独立行政法人 日本学術振興会
70	冠動脈疾患におけるPD-1/PD-L1の役割の解明	藤末 昂一郎	病院	2,615,337	補委	独立行政法人 日本学術振興会
71	成人T細胞白血病リンパ腫における予後予測モデルおよび微小残存病変の評価法の開発	井上 明威	病院	1,381,181	補委	独立行政法人 日本学術振興会
72	肥満・糖尿病におけるmicroRNAによるインスリンシグナル制御とその意義	小野 薫	病院	1,001,633	補委	独立行政法人 日本学術振興会
73	食道がん化学療法に影響を与える腸管内microbiomeの網羅的解析	八木泰佑	病院	2,013,971	補委	独立行政法人 日本学術振興会
74	胃癌腹膜播種におけるがん免疫システムの解明と革新的バイオマーカーの探索	清住雄希	病院	2,578,358	補委	独立行政法人 日本学術振興会
75	網羅的遺伝子解析に基づいた、DKK2を標的とした胆管癌治療の有効性の検討	中川 茂樹	病院	2,431,088	補委	独立行政法人 日本学術振興会
76	GISTにおけるイマチニブ耐性因子の網羅的解析と創薬への応用	古閑悠輝	病院	2,061,880	補委	独立行政法人 日本学術振興会
77	大腸癌における革新的治療を目指したARID1A変異の意義と有用性の解明	徳永 竜馬	病院	3,015,960	補委	独立行政法人 日本学術振興会
78	舌癌におけるマクロファージマンノースレセプターの発現に関する研究	竹本 梨紗	病院	2,729,601	補委	独立行政法人 日本学術振興会
79	網膜神経節細胞におけるIL-6/sIL-6とアデノシンシグナルの相互作用の意義	中島 圭一	病院	1,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
80	口腔扁平上皮癌におけるtRNAチオメチル化修飾を標的とした機能解析と治療法の開発	高橋望	病院	1,659,630	補委	独立行政法人 日本学術振興会
81	口腔扁平上皮癌のNrf2酸化経路を介した放射線耐性機構の解明と新規治療法の開発	松岡 祐一郎	病院	1,205,313	補委	独立行政法人 日本学術振興会
82	音声言語発達障害における特性理解・情報共有リーダーチャートの開発と有用性検討	野村 恵子	病院	50,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
83	医療行為の結果を質向上する多施設共同カイゼン研究デザインの確立に関する研究	近本 亮	病院	149,580	補委	独立行政法人 日本学術振興会

17件

小計 29,147,860円

84	ゲノム編集RNA技術を用いた遺伝性難病治療を実現する非ウイルスベクターの開発	城野 博史	病院	100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
85	膠芽腫における遺伝子「翻訳」調節機構の解明と治療への応用	山本 隆広	病院	1,817,386	補委	独立行政法人 日本学術振興会
86	口腔扁平上皮癌のOsteopontin発現と放射線耐性に関する検討	中嶋 光	病院	1,129,778	補委	独立行政法人 日本学術振興会
87	AIを用いたCTテクスチャ解析による大腸癌肝転移に対する化学療法の治療効果予測	宮本 裕士	病院	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
88	地域における薬剤耐性克服を目指したワンヘルスアプローチによる耐性菌の分子疫学解	野坂 生郷	病院	600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
89	FAPの新規疾患修飾療法を最大限活かすサロゲートマーカーと発症予兆検知指標の確立	増田 曜章	病院	760,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
90	仮性認知症としてのLate-onset AD/HDに関する臨床的研究	佐々木 博之	病院	300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
91	ドミノ肝移植レシピエントの心機能評価を利用した心アミロイドーシス早期診断法の開発	宇宿 弘輝	病院	570,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
92	endoglinを標的とした血管肉腫に対する新規治療法	梶原 一亨	病院	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
93	TGF-β2によるScx/Sox9共陽性細胞を標的とした腱板修復促進治療の開発	徳永 琢也	病院	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
94	緑内障における、ミトコンドリアを軸とした神経節細胞機能障害の新規生体イメージング	瀧原 祐史	病院	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
95	線維柱帯細胞のエキソソームを介したシュレム管内皮細胞への影響	高橋 枝里	病院	1,140,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
96	医学的見地と統計学的見地を融合させた最適な転倒転落アセスメントアルゴリズムの確立	山ノ内 祥訓	病院	200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
97	電子カルテ情報を利用した血液培養実施状況及び菌血症患者予後の網羅的解析	岡本 真一郎	病院	700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
98	セリンプロテアーゼ制御によるマルチターゲット作用を活用した新規AKI治療法の確立	成田 勇樹	病院	900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
99	肺癌に対する放射線療法と免疫療法の有効性の関連解析および最適な治療法の開発	坂田 晋也	病院	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
100	膵α細胞におけるHSP72によるグルカゴン分泌調節機構の解明	北野 さやか	病院	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

17件

小計 15,117,164円

101	急性期脳卒中におけるてんかん原生の解明(多施設前向き観察研究)	松原 崇一朗	病院	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
102	次元コーンビームCTを利用した体内線量分布計算システムの確立	下東 吉信	病院	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
103	SIRT7の腸管組織における機能解析および炎症性腸疾患との関連の探索	古田 陽輝	病院	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
104	慢性肝炎患者におけるFPがもたらす肝発癌の分子機構の解明とその臨床応用	立山 雅邦	病院	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
105	がん患者における静脈血栓塞栓症発症のリスク評価スコアの確立	末田 大輔	病院	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
106	慢性腎臓病における尿蛋白中セリンプロテアーゼを標的とした新規降圧療法の開発	中川 輝政	病院	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
107	アポトーシス制御に着目した急性腎障害の予防法および治療法の創出	森永 潤	病院	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
108	皮膚腫瘍免疫におけるインターフェロン誘導性遺伝子の解析とその制御法の開発	金丸 央	病院	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
109	多発性骨髄腫におけるCD38経路を介した腫瘍細胞生存機構の解明と新規治療への応用	河野 和	病院	376,200	補委	独立行政法人 日本学術振興会
110	βラクタム系薬の効果最大化が切り開く耐性菌の個別MICを活用した感染症治療新展開	尾田 一貴	病院	600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
111	非B非C型肝炎細胞癌の発育進展に関わる新たな細菌を標的とした革新的治療法の開発	美馬 浩介	病院	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
112	CRISPRライブラリーを用いた変形性関節症の原因遺伝子の網羅的解析	久永 哲	病院	1,500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
113	腱板修復術後のScx/Sox9共陽性細胞を介した修復機序の解明	井手尾 勝政	病院	1,400,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
114	腰部脊柱管狭窄症における黄色靭帯堆積アミロイドタンパクの研究	杉本 一樹	病院	1,500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
115	卵巣癌におけるANGPTL2を標的とした新たな治療戦略の開発	竹下 優子	病院	700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
116	放射線耐性口腔がんに対するIL-6シグナルを標的とした新規治療法の開発	有田 英生	病院	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
117	口腔癌におけるミトコンドリア動態が及ぼす抗癌剤耐性機構の解明と新規治療法の創出	川原 健太	病院	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
118	PARPを標的とした口腔癌の放射線抵抗性機構の解明と新規治療戦略の創出	坂田 純基	病院	1,600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

18 件

小計 21,876,200円

119	口腔がんにおけるネオアンチゲンの同定と新規個別化がんワクチン療法の開発	平山真敏	病院	1,100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
120	抗がん剤治療における産業・医療・保険に関するパレート効率性に関する実証研究	城野 博史	病院	300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
121	メラノーマに対するOX40L遺伝子導入iPS細胞由来マクロファージ療法の開発	木村 俊寛	病院	1,100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
122	ALDH2遺伝子変異型アレル保有者における心房細動再発についての検討	星山 禎	病院	1,100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
123	HTLV-1によるサイトカインシグナル経路攪乱を介した発がんメカニズムの解析	樋口 悠介	病院	1,100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
124	研スタ20K23034口腔がんにおけるm6A修飾を標的とした新規バイオマーカーと新規治療法の開発	平山 真弓	病院	1,100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
125	アルツハイマー病患者に対する生活行為工程分析に基づいたリハビリテーション介入の標準化に関する研究	吉浦 和宏	病院	300,000	補 委	厚生労働省
126	輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	米村 雄士	病院	680,000	補 委	厚生労働省
127	コロナ感染症蔓延下における精神科医を含む認知症初期集中支援チームの活動評価と有用性の研究	石川 智久	病院	800,000	補 委	厚生労働省
128	強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究	牧野 雄成	病院	200,000	補 委	厚生労働省
129	プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	野村 恵子	病院	200,000	補 委	厚生労働省
130	歩行可能なデュシエンヌ型筋ジストロフィーの自然歴研究	小篠 史郎	病院	17,317	補 委	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
131	MR-Enterography (MRE)による炎症性腸疾患の診断	伊牟田 真功	病院	1,000,000	補 委	出水市病院事業
132	心房細動を伴う脳梗塞における適切な直接口抗凝固薬開始時期の探求	中島 誠	病院	980,000	補 委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
133	野生型と薬剤耐性B型肝炎ウイルスに強力な活性を発揮する新規治療薬の研究・開発	満屋 裕明	病院	197,209,770	補 委	日本医療研究開発機構
134	HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	野坂 生郷	病院	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
135	療、JCOGバイオバンク登録、高齢ホジキンリンパ腫の病態解析	野坂 生郷	病院	700,000	補 委	国立病院機構名古屋医療センター
136	ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴研究の症例データ集積	小篠 史郎	病院	150,000	補 委	独立行政法人国立病院機構まつもと医療センター

18 件

小計 209,037,087円

137	特発性心筋症の診療に直結するエビデンス創出のためのAIを活用した自動病理診断システムの開発～希少・分類不能心筋症の自動抽出システムの開発～	高潮 征爾	病院	500,000	補 委	公立大学法人奈良県立医科大学
138	医師主導治験の実施(症例登録及びプロトコル遂行)	山口 宗影	病院	137,492	補 委	国立大学法人千葉大学
139	高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究	佐伯 祥	病院	500,000	補 委	国立がん研究センター
140	成人T細胞白血病に対する移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植法の確立と移植後再発への対策に関する研究	野坂 生郷	病院	300,000	補 委	国立がん研究センター
141	革新的治療法開発を目指した抗癌剤耐性に関わる腸内細菌叢の網羅的探索	馬場 秀夫	生命科学研究部	4,200,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
142	うつ病のグリア抗うつ薬受容体(LPA1)を基盤とした創薬・バイオマーカー研究	竹林 実	生命科学研究部	1,662,486	補 委	独立行政法人日本学術振興会
143	治療抵抗性口腔癌の根絶を目指したIL-6シグナル阻害による革新的放射線療法の開発	中山 秀樹	生命科学研究部	1,900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
144	ヒトT細胞白血病ウイルス1型による発がん機構の解明と治療への展開	松岡 雅雄	生命科学研究部	4,500,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
145	組織修復時の好中球動態に及ぼす腸内細菌叢の役割	本田 正樹	生命科学研究部	3,900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
146	HTLV-1によるマルチモードウイルス発がん機序の解明	安永 純一郎	生命科学研究部	5,100,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
147	医工連携によるミニチュアヒト肝臓創成とそのex vivo培養がもたらす革新的医療	山下 洋市	生命科学研究部	5,800,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
148	マルチオミクス統合解析を基にしたグリオーマ再発・悪性化機構解明と新規治療戦略創出	武笠 晃丈	生命科学研究部	4,400,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
149	認知症介護者における介護ストレスと介護に対する意味付け	小山 明日香	生命科学研究部	900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
150	悪性腫瘍患者のマクロファージに着目した新規免疫モニタリング法の開発	大西 紘二	生命科学研究部	1,620,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
151	根治療法の切り札アミロイド・プレイカー開発とそれを用いた毒性メカニズム探求	植田 光晴	生命科学研究部	1,000,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
152	幼少期ストレスとmiRNAに着目した気分障害の診断と治療に直結する病態解明研究	朴 秀賢	生命科学研究部	900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
153	マルチモダリティイメージングと機械学習による頭頸部癌の新たな節外浸潤診断法の開発	東家 亮	生命科学研究部	700,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
154	進行肝細胞癌に対する薬物治療効果予測法の確立	田中 基彦	生命科学研究部	900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
155	非虚血性心不全における冠微小循環障害のメカニズム解明と治療戦略開発	辻田 賢一	生命科学研究部	900,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

156	メラノーマに対する遺伝子 改変iPS細胞由来M1マクロ ファージ療法の開発	福島 聡	生命科学研究部	1,200,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
157	リボソーム生合成障害が造 血器腫瘍の発症・進展に果 たす役割の解明	松井 啓隆	生命科学研究部	1,100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
158	胆汁中エクソソームmRNA、 miRNAを用いた移植後拒 絶反応診断	菅原 寧彦	生命科学研究部	300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
159	内胸動脈の細胞を立体化 して新たに内胸動脈を作る 基盤技術開発	福井 寿啓	生命科学研究部	800,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
160	非小細胞肺癌の発生、進 行におけるERβと GPER1/GPR30の働きの解 明	池田 公英	生命科学研究部	300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
161	淡明細胞型腎細胞癌にお けるVBC-Cul2複合体下流 の新規治療標的分子の探 索	神波 大己	生命科学研究部	900,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
162	卵巣自家移植の最適化条 件決定の為の腹壁子宮内 膜症病巣の組織構築の検 討	本田 律生	生命科学研究部	1,400,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
163	高悪性口腔癌が分泌する エクソソームによる腫瘍微 小環境制御機構の解明と 治療応用	吉田 遼司	生命科学研究部	1,000,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
164	TN乳癌におけるエクソソー ムmiRNAを用いた治療抵抗 性機序の解明	末田 愛子	生命科学研究部	300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
165	DAAs治療後の血清 Exosome中miRNAの変化が 肝発癌に与える影響の解 析	渡邊 丈久	生命科学研究部	900,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
166	新規サーチュイン、Sirt7の 動脈硬化進展に果たす役 割と分子機序の解明	木村 優一	生命科学研究部	800,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
167	進行肺癌を対象とした腫瘍 免疫抑制回避と能動免疫 を併用するがん免疫療法 の臨床研究	富田 雄介	生命科学研究部	600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
168	難治性気道感染症におけ る抗菌薬適正使用法の開 発—薬剤耐性菌の克服を 目指して	右山 洋平	生命科学研究部	600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
169	新規HIVプロウイルス編集 システムとゲノム編集促進 薬によるHIV排除法の開発	中村 朋文	生命科学研究部	850,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
170	型糖尿病における褐色脂 肪組織の再生を促す生理 活性因子の解明	阪口 雅司	生命科学研究部	1,000,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
171	プロラクチンを介した子宮 内膜癌の発症・増殖機構の 解明と新たな予防・治療戦 略	山口 宗影	生命科学研究部	1,200,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
172	末梢血中を循環する fibrocyteの線内障後創 傷治癒への関与の解明	小島 祥	生命科学研究部	900,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
173	非肝炎ウイルス性肝細胞癌 におけるレトロトランスポ ン変化の解明	別府 透	生命科学研究部	1,200,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
174	プロテオミクスによる共存蛋 白を標的とした遺伝性TTR 型脳アミロイド血管症の解 析	山下 太郎	生命科学研究部	1,100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

19 件
小計 16,450,000円

175	各種治療後の肝細胞がん免疫微小環境の解析とICI治療応用	近藤 泰輝	生命科学研究部	1,578,597	補委	独立行政法人 日本学術振興会
176	mtROSとNrf2を介した糖尿病大血管症発現機序解明と制御による治療への応用	久木留 大介	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
177	心筋虚血再灌流障害の克服を目指したSirt7の新たな機能解析	荒木 智	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
178	マクロファージの活性化制御に基づく小細胞肺癌の新規治療法の開発	入来 豊久	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
179	炎症メディエーターMRP8が腎炎進展に果たす役割の検討	栗原 孝成	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
180	糖尿病性腎症における糸球体内細胞間クロストークに作用する化合物の探索	水本 輝彦	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
181	webによる抗サイトカイン自己抗体測定受託システムを利用した稀少疾患解析	坂上 拓郎	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
182	バイオマーカーに沿ったスタチン併用大腸癌治療法の開発	石川 晋之	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
183	血管組織型バイオロジカルステントグラフトの開発	岡本 健	生命科学研究部	800,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
184	腱板断裂に対するヘッジホッグシグナルを介した修復促進治療の開発	唐杉 樹	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
185	腫瘍内微小環境でのマクロファージCD163の機能解析と治療標的分子としての可能性	白石 大偉輔	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
186	原発性卵巣不全患者における減数分裂関連因子異常の探索	伊藤 史子	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
187	糖尿病の影響を受けた胎児の形態異常に関わる遺伝子のエピゲノム変異に関する研究	大場 隆	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
188	線維柱帯細胞とシユレム管内皮細胞の相互作用による房水流出機構の解明	藤本 智和	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
189	静止期癌細胞モデルから迫る癌転移再発機構の解明	神力 悟	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
190	難治性てんかんの焦点診断におけるマルチパラメトリックMRIの開発	上谷 浩之	生命科学研究部	600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
191	大腸锯齿状病変の発癌過程における責任分子の同定と臨床応用	庄野 孝	生命科学研究部	600,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
192	全身性強皮症の病能における皮膚微小血管内皮細胞由来microRNAの役割の検討	牧野 雄成	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
193	強皮症の線維化におけるmicroRNAの役割の検討	本多 教稔	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

19 件
小計 19,678,597円

194	脳梗塞急性期における炎症の関与	天達 俊博	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
195	脳血管周囲マクロファージが悪性神経膠腫の増殖・浸潤に関わる病態の解明	植川 颯	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
196	上皮性卵巣癌の治療過程におけるM2マクロファージの変化と新規治療戦略への応用	坪木 純子	生命科学研究部	900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
197	高解像度内圧計と管腔内インピーダンス測定による新たな嚥下機能評価法の開発	宮本 卓海	生命科学研究部	500,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
198	口腔癌の脂質代謝を介した悪性形質獲得機構の解明と新規治療標的の創出	中元 雅史	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
199	脳血管指向型の複合型脳アミロイドアンギオパチー掃討治療の開発	井上 泰輝	生命科学研究部	9,900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
200	胃癌腹膜播種における腫瘍不均一性および腫瘍微小環境を標的とした革新的治療法の開発	岩槻 政晃	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
201	自己抗体の病因的意義の解明に基づいた封入体筋炎の診断と治療法開発	山下 賢	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
202	分子結合技術を用いた新たな造影剤による革新的がんMRI画像化技術の開発	平井 俊範	生命科学研究部	217,373	補委	独立行政法人 日本学術振興会
203	濾紙血中のSMNタンパク測定による脊髄性筋萎縮症の新生児スクリーニング	中村 公俊	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
204	経カテーテル大動脈弁留置周術期の総合的血栓形成能評価法による至適抗血栓療法確立	海北 幸一	生命科学研究部	900,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
205	腎内慢性炎症と液性因子を軸とした腎障害進行メカニズム及びその制御に関する研究	向山 政志	生命科学研究部	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
206	急性骨髄性白血病におけるT細胞系転写因子ネットワークの解明	岩永 栄作	生命科学研究部	1,800,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
207	胆汁酸トランスポーターを介した糖代謝・脂質代謝制御機構の解明と治療への応用	石井 規夫	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
208	新規治療薬開発を目指した腫瘍微小環境におけるPD-L1発現の意義と機序解明	塚本 雅代	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
209	腫瘍間質細胞によって促進される胃癌腹膜播種進展メカニズムの解明	安田 忠仁	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
210	RNF43遺伝子異常によるWNTシグナルネットワークを介した膵発癌機構の解明	杉原 栄孝	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
211	膵癌におけるPD-L1/PD-1クロストークが癌細胞に与える影響	今井 克憲	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

18 件

小計 27,917,373円

212	膵癌におけるHippo pathwayと癌微小環境のinteractionの解明	東 孝暁	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
213	癌関連線維芽細胞におけるC5a受容体を標的とした膵癌幹細胞制御	新田 英利	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
214	エキソソーム内包microRNA/遺伝子制御による胃癌腹膜播種の原因究明	藏重 淳二	生命科学研究部	1,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
215	非小細胞肺癌縮小手術におけるCDCA1-OSNA法の確立	鈴木 実	生命科学研究部	2,100,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
216	$\alpha 2 \delta$ リガンドの作用機序の解明、特に上位中枢との関連	山本 達郎	生命科学研究部	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
217	腎細胞癌・尿路上皮癌における腫瘍内および全身性免疫環境の統合的解析	元島 崇信	生命科学研究部	1,400,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
218	リンパ節抗原提示細胞に着目した新たながん免疫療法の開発	矢津田 旬二	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
219	環境物質の経卵管的な卵巣暴露による発癌機構の解明から導かれる卵巣癌予防の外科戦略	片淵 秀隆	生命科学研究部	1,200,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
220	舌癌発生過程におけるTreg排除療法の研究	折田 頼尚	生命科学研究部	2,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
221	Sirt7によるIRE1アセチル化を介したHFpEF病態形成機構の解明	山村 智	生命科学研究部	700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
222	胃癌における新規免疫チェックポイント機構NKG2A/HLA-Eの制御因子の解析	山下 晃平	生命科学研究部	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
223	急性骨髄性白血病に特異的な代謝を標的とした新規薬剤の開発	興梠 健作	生命科学研究部	2,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
224	肝内胆管癌におけるDNAメチル化とIDH変異に関する包括的検討	宮田 辰徳	生命科学研究部	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
225	腎細胞癌におけるMicroRNA-204-5pおよびTRPM3の機能解析	倉橋 竜磨	生命科学研究部	1,000,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
226	テノビル(TDF)に対する新規耐性HBVの同定と耐性メカニズムの解明	林 佐奈衣	生命科学研究部	1,050,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
227	膵 β 細胞におけるPHD3による低酸素応答機構の解明	津山 友徳	生命科学研究部	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
228	肝細胞癌における腫瘍免疫制御機構の機序解明	遊佐 俊彦	生命科学研究部	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
229	大腸癌における腫瘍免疫が全身性炎症に及ぼすメカニズムの解明	大徳 暢哉	生命科学研究部	1,700,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

18件

小計 26,450,000円

230	大腸癌患者におけるサルコペニアと腸内細菌の関連	坂本 悠樹	生命科学研究部	1,600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
231	代謝リモデリングを介した膝痛進展メカニズムの解明	伊東山 瑠美	生命科学研究部	1,800,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
232	患者アバター技術を使用した再発小細胞肺癌の薬剤耐性化メカニズムの研究	藤野 孝介	生命科学研究部	2,600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
233	前十字靭帯再建術後の移植細胞に対するScx, Sox9陽性細胞の解析	舛田 哲朗	生命科学研究部	1,100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
234	組織工学的手法を用いた甲状腺の再生	西本 康兵	生命科学研究部	1,900,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
235	細胞移植による内耳有毛細胞再生	竹田 大樹	生命科学研究部	2,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
236	多系統蛋白質症(MSP)患者の全国実態調査と診療体制構築に関する研究	山下 賢	生命科学研究部	2,310,000	補 委	厚生労働省
237	新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症における生涯にわたる診療体制の整備に関する研究	中村 公俊	生命科学研究部	17,600,000	補 委	厚生労働省

8 件
小計 31,210,000円

合計 521,413,841円

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入す
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Akaike K, Saruwatari K, Oda S, et al.	呼吸器内科	Predictive value of 18F-FDG PET/CT for acute exacerbation of interstitial lung disease in patients with lung cancer and interstitial lung disease treated with chemotherapy.	Int J Clin Oncol. 2020 Apr;25(4):681-690	Original Article
2	Sakata S, Imamura K, Tajima Y, et al.	呼吸器内科	Heterogeneous tumor-immune microenvironments between primary and metastatic carcinoid tumors differentially respond to anti-PD- L1 antibody therapy.	Thoracic Cancer. 2021 Feb;12(3):397-401	Case report
3	Tomita Y, Ikeda T, Sakata S, et al.	呼吸器内科	Association of probiotic Clostridium butyricum therapy with survival and response to immune checkpoint blockade in patients with lung cancer.	Cancer Immunol Res. 2020 Oct; 8(19):1236- 1242.	Original Article
4	Tomita Y, Oronsky B, Abrouk N, et al.	呼吸器内科	In small cell lung cancer patients treated with RRx- 001, a downregulator of CD47, decreased expression of PD-L1 on circulating tumor cells significantly correlates with clinical benefit.	Transl Lung Cancer Res. 2021 Jan;10(1):274-278.	Original Article
5	Tomita Y, Ikeda T, Sato R, et al.	呼吸器内科	Association between HLA gene polymorphisms and mortality of COVID- 19: An in silico analysis.	Immun Inflamm Dis. 2020 Dec;8(4):684-694.	Original Article

小計 5

6	Tomita Y, Sato R, Ikeda T, et al.	呼吸器内科	BCG vaccine may generate cross-reactive T cells against SARS-CoV-2: In silico analyses and a hypothesis.	Vaccine. 2020 Sep;38:6352-6356.	Original Article
7	Anai M, Akaike K, Iwagoe H, et al.	呼吸器内科	Decrease in hemoglobin level predicts increased risk for severe respiratory failure in COVID-19 patients with pneumonia	Respir Investig. 2021 Mar;59(2):187-193.	Original Article
8	Hamada S, Ichiyasu H, Inaba M, et al.	呼吸器内科	Prognostic impact of pre-existing interstitial lung disease in non-HIV patients with Pneumocystis pneumonia	ERJ Open Res. 2020 May 4;6(2):00306-2019.	Original Article
9	Jodai T, Saruwatari K, Ikeda T, et al.	呼吸器内科	Clinical outcomes and predictive value of programmed cell death-ligand 1 expression in response to anti-programmed cell death 1/ligand 1 antibodies in non-small cell lung cancer patients with performance status 2 or greater	Int J Clin Oncol. 2021 Jan;26(1):78-86.	Original Article
10	Nakashima K, Saruwatari K, Sato R, et al.	呼吸器内科	Non-small-cell Lung Cancer with Severe Skin Manifestations Related to Radiation Recall Dermatitis after Atezolizumab Treatment	Intern Med. 2020 May 1;59(9):1199-1202.	Case report
11	Tenjin Y, Matsuura K, Kudoh S, et al.	呼吸器内科	Distinct transcriptional programs of SOX2 in different types of small cell lung cancers	Lab Invest.. 2020 Dec;100(12):1575-1588	Original Article

12	Hayashi S, Higashi- Kuwata N, Das D, et al.	消化器内科	7-Deaza-7-fluoro modification confers on 4'-cyano- nucleosides potent activity against entecavir/adefov- ir-resistant HBV variants and favorable safety	Antiviral Res, 2020 Apr;176,104744	Original Article
13	Nagaoka K, Mulla J, Cao K, et al.	消化器内科	The metabolite, alpha-ketoglutarate inhibits non- alcoholic fatty liver disease progression by targeting lipid metabolism	Liver Research, 2020 Jun;4(2),94-100	Original Article
14	Tsuruta Y, Furuta Y, Naoe H, et al.	消化器内科	Multiple Gastric Polyps Improved After Treatment for Ulcerative Colitis.	Inflamm Bowel Dis, 2020 Oct;26(11),e144- e145	Case report
15	Tateyama M, Naoe H, Tanaka M, et al.	消化器内科	Loss of skeletal muscle mass affects the incidence of minimal hepatic encephalopathy: a case control study.	BMC Gastroenterol, 2020 Nov;20(1),371	Original Article
16	Tanaka Y, Ogawa E, Huang C-F, et al.	消化器内科	HCC risk post-SVR with DAAs in East Asians: findings from the REAL-C cohort	Hepatol Int, 2020 Dec;14(6),1023- 1033	Original Article
17	Kusumoto S, Tanaka Y (equal 1st), Suzuki R, et al.	消化器内科	Ultra-high sensitivity HBsAg assay can diagnose HBV reactivation following rituximab- based therapy in patients with lymphoma	J Hepatol, 2020 Aug;73(2),285-293	Original Article

18	Higuchi Y, Yasunaga JI, Mitagami Y, et al.	血液・膠原病・感染症内科	HTLV-1 induces T-cell malignancy and inflammation by viral antisense 1 factor-mediated modulation of the cytokine signaling	Proc Natl Acad Sci U S A ,2020 Jun 23, 117:13740-13749	Original Article
19	Yasunaga JI	血液・膠原病・感染症内科	Strategies of Human T-Cell Leukemia Virus Type 1 for Persistent Infection: Implications for Leukemogenesis of Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma	Front. Microbiol,2020 May 19;11:979	Review
20	Sakata K, Yasuoka H, Yoshimoto K, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Decreased activation of ataxia telangiectasia mutated (ATM) in monocytes from patients with systemic sclerosis.	Rheumatology (Oxford) 2020 Dec 1, 59(12):3961-3970,	Original Article
21	Sakata K, Kikuchi J, Emoto K, et al.	血液・膠原病・感染症内科	Refractory IgG4-related Pleural Disease with Chylothorax: A Case Report and Literature Review.	Intern Med Online, 2021 Feb 1, 6313-20.	Case report
22	Fujimoto D, Adachi M, Miyasato Y, et al.	腎臓内科	Efficacy of continuous erythropoietin receptor activator for end-stage renal disease patients with renal anemia before and after peritoneal dialysis initiation.	Clin Exp Nephrol. 2021 Feb;25(2):191-199.	Original Article
23	Fujimoto D, Kuwabara T, Hata Y, et al.	腎臓内科	Suppressed ER-associated degradation by intraglomerular cross talk between mesangial cells and podocytes causes podocyte injury in diabetic kidney disease.	FASEB J. 2020 Nov;34(11):15577-15590.	Original Article

24	Kanki T, Kuwabara T, Morinaga J, et al.	腎臓内科	The predictive role of serum calprotectin on mortality in hemodialysis patients with high phosphoremia.	BMC Nephrol. 2020 May 4;21(1):158.	Original Article
25	Morinaga J, Kakuma T, Fukami H, et al.	研究展開センター	Circulating angiotensin-like protein 2 levels and mortality risk in patients receiving maintenance hemodialysis: a prospective cohort study.	Nephrol Dial Transplant. 2020 May 1;35(5):854-860.	Original Article
26	Araki E, Watada H, Uchigata Y, et al.	代謝内科学講座	Efficacy and safety of dapagliflozin in Japanese patients with inadequately controlled type 1 diabetes (DEPICT-5): 52-week results from a randomized, open-label, phase III clinical trial.	Diabetes Obes Metab 22(4):540-548, 2020 Apr	Original Article
27	Kawashima J, Araki E, Naruse M, et al.	代謝内科学講座	Baseline Plasma Aldosterone Level and Renin Activity Allowing Omission of Confirmatory Testing in Primary Aldosteronism.	J Clin Endocrinol Metab. 105(5). 2020 May	Original Article
28	Araki E, Araki H, Senokuchi T, et al.	代謝内科学講座	New perspectives on insulin therapy.	J Diabetes Investig 11(4):795-797. 2020 Jul	Review
29	Araki E, Goto A, Kondo T, et al.	代謝内科学講座	Japanese Clinical Practice Guideline for Diabetes 2019.	Diabetol Int 11(3):165-223. 2020 Jul	Review

小計 6

30	Araki E, Tanaka A, Inagaki N, et al.	代謝内科学講座	Diagnosis, Prevention, and Treatment of Cardiovascular Diseases in People With Type 2 Diabetes and Prediabetes – A Consensus Statement Jointly From the Japanese Circulation Society and the	Diabetol Int 12(1): 1-51. 2020 Nov	Review
31	Tsujita K, Deguchi H, Uda A, et al.	循環器内科	Upper gastrointestinal bleeding in Japanese patients with ischemic heart disease receiving vonopran or a proton pump inhibitor with multiple antithrombotic agents: A nationwide	J Cardiol. 2020 Jul;76(1):51-57.	Original Article
32	Sueta D, Kidoh M, Oda S, et al.	循環器内科	Usefulness of Cardiac Computed Tomography in the Diagnosis of Anti- Cancer Therapy- Related Cardiac Dysfunction – Consistency With Magnetic Resonance Imaging	Circ J . 2021 Mar 25;85(4):393- 396.	Letter
33	Sueta D, Usuku H, Kinoshita Y, et al.	循環器内科	Left atrial function assessed by speckle tracking echocardiography in anthracycline- induced cardiotoxicity: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2020 Nov 12;4(6):1-5.	Case report
34	Sueta D, Kaikita K, Matsushita K, et al.	循環器内科	eThrombosis: A new risk factor for venous thromboembolism in the pandemic era.	Res Pract Thromb Haemost. 2020 Nov 10;5(1):243-244.	Letter
35	Suzuki S, Kaikita K, Yamamoto E, et al.	循環器内科	Role of acetylcholine spasm provocation test as a pathophysiological assessment in nonobstructive coronary artery disease.	Cardiovasc Interv Ther. 2021 Jan;36(1):39-51.	Review

36	Sueta D, Kidoh M, Oda S, et al.	循環器内科	Novel assessment of cancer therapy-related cardiac dysfunction by cardiac computed tomography: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2020 Jul 28;4(4):1-2.	Case report
37	Sueta D, Tabata N, Tsujita K.	循環器内科	The discrepancy over the obesity paradox.	EuroIntervention. 2020 Jul 17;16(4):e353-e354.	Letter
38	Sueta D, Tabata N, Tanaka M, et al.	循環器内科	Associations between corrected serum calcium and phosphorus levels and outcome in dialysis patients in the Kumamoto Prefecture.	Hemodial Int. 2020 Apr;24(2):202-211.	Original Article
39	Takashio S, Nishi M, Tsuruta Y, et al.	循環器内科	Wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy complicated by spinal canal stenosis, carpal tunnel syndrome, and rotator cuff tears: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2020 Nov 6;4(6):1-6	Case report
40	Arima Y, Nakagawa Y, Takeo T, et al.	循環器内科	Murine neonatal ketogenesis preserves mitochondrial energetics by preventing protein hyperacetylation	Nat Metab . 2021 Feb;3(2):196-210.	Original Article
41	Takashio S, Kaikita K, Nishi M, et al.	循環器内科	Detection of acquired von Willebrand syndrome after ventricular assist device by total thrombus-formation analysis system.	ESC Heart Fail. 2020 Oct;7(5):3235-3239.	Original Article

42	Yamanaga K, Sakamoto K, Kajiwara I, et al.	循環器内科	Coronary artery perforation into the upper gastrointestinal cavity due to gastric ulceration.	Catheter Cardiovasc Interv. 2021 Feb 1;97(2):E237-E240.	Case report
43	Tabata N, Weber M, Sugiura A, et al.	循環器内科	Impact of combined baseline and postprocedural troponin values on clinical outcome following the MitraClip procedure.	Catheter Cardiovasc Interv. 2020 Dec;96(7):E735-E743.	Original Article
44	Tabata N, Weber M, Sugiura A, et al.	循環器内科	Impact of cancer history on clinical outcome in patients undergoing transcatheter edge-to-edge mitral repair.	Clin Res Cardiol. 2021 Mar;110(3):440-450.	Original Article
45	Tabata N, Al-Kassou B, Sugiura A, et al.	循環器内科	Prognostic impact of cancer history in patients undergoing transcatheter aortic valve implantation.	Clin Res Cardiol. 2020 Oct;109(10):1243-1250.	Original Article
46	Tabata N, Al-Kassou B, Sugiura A, et al.	循環器内科	Predictive factors and long-term prognosis of transcatheter aortic valve implantation-associated endocarditis.	Clin Res Cardiol. 2020 Sep;109(9):1165-1176.	Original Article
47	Komorita T, Yamamoto E, Sueta D, et al.	循環器内科	The controlling nutritional status score predicts outcomes of cardiovascular events in patients with heart failure with preserved ejection fraction.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2020 Jun 26;29:100563.	Original Article

48	Shirahama Y, Tabata N, Sinning JM, et al.	循環器内科	Successful Aortic Valve-in-Valve Implantation in a Patient With Replaced Aorta, Subclavian Artery Occlusions and Aortic Dissection.	Circ J. 2021 Feb 25;85(3):314	Case report
49	Ohno M, Yamada T, Otsuka Y, et al.	循環器内科	Corrigendum to 'A case of severe pulmonary thromboembolism in mycoplasma infection during early pregnancy'	J. Cardiol Cases. 2020 Sep 30;22(6):309.	Case report
50	Nishihara T, Tokitsu T, Sueta D, et al.	循環器内科	Clinical significance of reactive oxidative metabolites in patients with heart failure with reduced left ventricular ejection fraction.	J Card Fail. 2021 Jan;27(1):57-66	Original Article
51	Tsuruta Y, Sueta D, Takashio S, et al.	循環器内科	Left-dominant arrhythmogenic cardiomyopathy with a nonsense mutation in DSP.	ESC Heart Fail. 2020 Oct;7(5):3174-3178.	Case report
52	Ohno M, Yamada T, Otsuka Y, et al.	循環器内科	A case of severe pulmonary thromboembolism in mycoplasma infection during early pregnancy.	J Cardiol Cases. 2020 Jun 21;22(3):140-142.	Case report
53	Sato R, Sakamoto K, Kaikita K, et al.	循環器内科	Long-Term Prognosis of Patients with Myocardial Infarction Type 1 and Type 2 with and without Involvement of Coronary Vasospasm.	J Clin Med. 2020 Jun 2;9(6):1686.	Original Article

54	Oike F, Yamamoto E, Sueta D, et al.	循環器内科	Clinical significance of diastolic late mitral annular velocity in heart failure with preserved ejection fraction.	Int J Cardiol. 2020 Oct 1;316:145-151.	Original Article
55	Nagamatsu S, Sakamoto K, Yamashita T, et al.	循環器内科	Impact of hydrostatic pressure on fractional flow reserve: in vivo experimental study of anatomical height difference of coronary arteries.	J Cardiol. 2020 Jul;76(1):73-79.	Original Article
56	Yamamoto M, Takashio S, Nakashima N, et al.	循環器内科	Double-chambered right ventricle complicated by hypertrophic obstructive cardiomyopathy diagnosed as Noonan syndrome.	ESC Heart Fail. 2020 Apr;7(2):721-726.	Original Article
57	Yamashita T, Sakamoto K, Tabata N, et al.	循環器内科	Imaging-guided PCI for event suppression in Japanese acute coronary syndrome patients: community- based observational cohort registry.	Cardiovasc Interv Ther. 2021 Jan;36(1):81-90.	Original Article
58	Kiyama T, Kanazawa H, Yamabe H, et al.	循環器内科	Analysis of the driving mechanism in paroxysmal atrial fibrillation: comparison of the activation sequence between the left atrial body and pulmonary vein.	J Cardiol. 2020 Jun;75(6):673-681.	Original Article
59	Marume K, Nagatomo K, Yamamoto N, et al.	循環器内科	Prognostic impact of the presence of on- duty cardiologist on patients with acute myocardial infarction admitted during off- hours.	J Cardiol. 2020 Aug;76(2):184-190.	Original Article

60	Kuyama N, Hamatani Y, Okada A, et al.	循環器内科	Comparison of Clinical Characteristics, Natural History and Predictors of Disease Progression in Patients With Degenerative Mitral Stenosis Versus Rheumatic Mitral Stenosis.	Am J Cardiol. 2021 Mar 15;143:118-124.	Original Article
61	Yamada T, Takashio S, Arima Y, et al.	循環器内科	Clinical characteristics and natural history of wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy in Japan.	ESC Heart Fail. 2020 Oct;7(5):2829-2837.	Original Article
62	Nakanishi N, Kaikita K, Ishii M, et al.	循環器内科	Development and assessment of total thrombus-formation analysis system-based bleeding risk model in patients undergoing percutaneous coronary intervention.	Int J Cardiol. 2021 Feb 15;325:121-126.	Original Article
63	Takeuchi Y, Murahashi S, Hara Y, et al.	脳神経内科	Possible Cerebral Vasculitis in a Case with Rheumatoid Arthritis.	Intern Med' 2021 Mar 15;60(6):935-940.	Original Article
64	Ueda M, Sekijima Y, Koike H, et al.	脳神経内科	Monitoring of asymptomatic family members at risk of hereditary transthyretin amyloidosis for early intervention with disease-modifying therapies	J Neurol Sci, 2020 Jul;414:116813.	Original Article
65	Michie Imamura, Osamu Higuchi, Yasuhiro Maeda, et al.	脳神経内科	Anti-Kir4.1 Antibodies in Multiple Sclerosis: Specificity and Pathogenicity.	International journal of molecular sciences.2020 Dec 17;21(24):9632	Review

小計 6

66	Kentaro Hara, Kentaro Nozaki, Yoshimasa Matsuo, et al.	脳神経内科	Biological significance of target fibres in amyotrophic lateral sclerosis	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2020 Nov;91(11):1241-1242.	Original Article
67	Takaki J, Hosoda Y, Okamoto K, et al.	心臓血管外科	Radiotherapy-related skin ulcer communicating with a left ventricular aneurysm.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2020 May;30:783-784.	Case report
68	Fukui T, Takaki J, Okamoto K.	心臓血管外科	Collateral Formation from Left Lateral Thoracic Artery to Adamkiewicz Artery.	AORTA. 2020 Dec;8(6):175-177	Case report
69	Nishigawa K, Fukui T, Uemura K, et al.	心臓血管外科	Preoperative renal malperfusion is an independent predictor for acute kidney injury and operative death but is not associated with late mortality after surgery for acute type A aortic dissection.	Eur J Cardiothorac Surg. 2020 Aug;58:302-308.	Original Article
70	Hironobu Osumi, Haruki Horiguchi, Tsuyoshi Kadomatsu, et al.	呼吸器外科	Tumor cell-derived angiopoietin-like protein 2 establishes a preference for glycolytic metabolism in lung cancer cells.	Cancer science 111(4) 1241 - 1253 2020 Apr	Original Article
71	Hirokazu Hamasaki, Chika Shirakami, Tatsuya Yamada, et al.	呼吸器外科	Specific techniques for right sleeve lower lobectomy: four case reports.	Surgical case reports 7(1) 38 - 38 2021 Feb	Case report

72	Harada K, Wu CC, Wang X, et al.	消化器外科	Total lesion glycolysis assessment identifies a patient fraction with a high cure rate among esophageal adenocarcinoma patients treated with definitive chemoradiation	Ann Surg 272:311-318, 2020 Aug	Original Article
73	Okadome K, Baba Y, Yagi T, et al.	消化器外科	Prognostic nutritional index, tumor-infiltrating lymphocytes, and prognosis in patients with esophageal cancer	Ann Surg 271:693-700, 2020 Apr	Original Article
74	Yoshida N, Yamamoto H, Baba H, et al.	消化器外科	Can minimally invasive esophagectomy replace open esophagectomy for esophageal cancer? latest analysis of 24,233 esophagectomies from the Japanese National Clinical Database	Ann Surg 272:118-124, 2020 Jul	Original Article
75	Uchihara T, Miyake K, Yonemura A, et al.	消化器外科	Extracellular vesicles from cancer-associated fibroblasts containing annexin A6 induces FAK-YAP activation by stabilizing beta1 integrin, enhancing drug resistance	Cancer Res 80:3222-3235, 2020 Aug	Original Article
76	Harada K, Hwang H, Wang X, et al.	消化器外科	Brain metastases in patients with upper gastrointestinal cancer is associated with proximally located adenocarcinoma and lymph node metastases.	Gastric Cancer 23:904-912, 2020 Sep	Original Article
77	Okadome K, Baba Y, Nomoto D, et al.	消化器外科	Prognostic and clinical impact of PD-L2 and PD-L1 expression in a cohort of 437 oesophageal cancers	Br J Cancer 122:1535-1543, 2020 May	Original Article

78	Yamashita Y, Baba H	消化器外科	Vessels encapsulating tumor clusters in hepatocellular carcinoma: a unique and valuable pathological imaging	Hepatobiliary Surg Nutr 9:484-487, 2020 Aug	Review
79	Baba Y, Nomoto D, Okadome K, et al.	消化器外科	Tumor immune microenvironment and immune checkpoint inhibitors in esophageal squamous cell carcinoma	Cancer Sci 111:3132- 3141, 2020 Sep	Review
80	Akiyama T, Miyamoto Y, Imai K, et al.	消化器外科	Fibrosis-4 index, a noninvasive fibrosis marker, predicts survival outcomes after hepatectomy for colorectal cancer liver metastases	Ann Surg Oncol 27:3534- 3541, 2020 Sep	Original Article
81	Imai K, Baba H	消化器外科	ASO author reflections: Portal vein embolization followed by hepatectomy for hepatocellular carcinoma in patients with impaired liver function: Is it justified?	Ann Surg Oncol 27:876- 877, 2020 Dec	Others
82	Yoshida N, Adachi Y, Morinaga T, et al.	消化器外科	Wives as key persons positively impacting Prognosis for Male Patients Undergoing Esophagectomy for Esophageal Cancer: A Retrospective Study from a Single Japanese Institute.	Ann Surg Oncol 27:2402- 2411, 2020 Jul	Original Article
83	Yoshida N, Baba H	消化器外科	ASO author reflections: wives as key persons positively impact prognosis for male patients undergoing esophagectomy for esophageal cancer	Ann Surg Oncol 27:2412- 2413, 2020 Jul	Others

84	Harada K, Zhao M, Shanbhag N, et al.	消化器外科	Palliative care for advanced gastric cancer.	Expert Rev Anticancer Ther 20:575-580, 2020 Jul	Review
85	Hayashi H, Miyamoto Y, Higashi T, et al.	消化器外科	CD44 expression enhances chemoresistance and implies occult micrometastases after conversion hepatectomy for initially unresectable colorectal liver metastases	Am J Transl Res 12:5955-5966, 2020 Sep	Original Article
86	Hayashi H, Baba H	消化器外科	New era with the genetic assessment for biliary tree cancers beyond the anatomical assessment alone.	Ann Transl Med 8:732, 2020 Jun	Review
87	Takematsu T, Hayashi H, Higashi T, et al.	消化器外科	Successful treatment for the recurrent liver metastases of the pancreatic cancer by multimodality therapy	Pancreas 49:e75-e76, 2020 Sep	Case report
88	Daitoku N, Miyamoto Y, Sakamoto Y, et al.	消化器外科	Prognostic significance of serum p53 antibody according to KRAS status in metastatic colorectal cancer patients.	Int J Clin Oncol 25:651-659, 2020 Apr	Original Article
89	Miyamoto Y, Hiyoshi Y, Tokunaga R, et al.	消化器外科	Postoperative complications are associated with poor survival outcome after curative resection for colorectal cancer: A propensity-score analysis	J Surg Oncol 122:344-349, 2020 Aug	Original Article

90	Hayashi H, Yamashita YI, Okabe H, et al.	消化器外科	Varied application of intercostal trans-diaphragmatic ports for laparoscopic hepatectomy	PLoS One 15:e0234919, 2020 Jun.	Original Article
91	Miyamoto Y, Schirripa M, Suenaga M, et al.	消化器外科	A polymorphism in the cachexia-associated gene INHBA predicts efficacy of regorafenib in patients with refractory metastatic colorectal cancer	PLoS One 15:e0239439, 2020 Sep	Original Article
92	Sakamoto Y, Mima K, Imai K, et al.	消化器外科	Preoperative C-reactive protein-to-albumin ratio and clinical outcomes after resection of colorectal liver metastases.	Surg Oncol 35:243-248, 2020 Dec	Original Article
93	Nomoto D, Baba Y, Akiyama T, et al.	消化器外科	Outcomes of esophageal bypass surgery and self-expanding metallic stent insertion in esophageal cancer: reevaluation of bypass surgery as an alternative treatment	Langenbecks Arch Surg 405:1111-1118, 2020 Dec	Original Article
94	Kaida T, Beppu T, Hayashi H, et al.	消化器外科	Inflammatory liver tumor caused by Fasciola hepatica mimicking intrahepatic cholangiocarcinoma	Anticancer Res 40:2795-2800, 2020 May	Case report
95	Harada K, Patnana M, Wang X, et al.	消化器外科	Low metabolic activity in primary gastric adenocarcinoma is associated with resistance to chemoradiation and the presence of signet ring cells	Surg Today 50:1223-1231, 2020 Oct	Original Article

96	Itoyama R, Okabe H, Nakao Y, et al.	消化器外科	The pivotal predictor of severe postoperative complications of pancreatoduodenectomy: complex links of bacterial contamination from preoperative biliary drainage	Surg Today 50:1594-1600, 2020 Dec	Original Article
97	Sakamoto Y, Miyamoto Y, Tokunaga R, et al.	消化器外科	Long-term outcomes of colorectal cancer surgery for elderly patients: a propensity score-matched analysis	Surg Today 50:597-603, 2020 Jun	Original Article
98	Matsumura K, Hayashi H, Uemura N, et al.	消化器外科	Prognostic impact of coagulation activity in patients undergoing curative resection for pancreatic ductal adenocarcinoma	In Vivo 34:2845-2850, 2020 Sep	Case report
99	Eto K, Yoshida N, Iwagami S, et al.	消化器外科	Surgical treatment for gastrointestinal neuroendocrine tumors	Ann Gastroenterol Surg 4:652-659, 2020 Sep	Review
100	Harada K, Rogers JE, Iwatsuki M, et al.	消化器外科	Recent advances in treating oesophageal cancer	F1000Res 9:F1000 Faculty Rev-1189, 2020 Oct	Review
101	Hayashi H, Baba H	消化器外科	Current statement and safe implementation of minimally invasive surgery in the pancreas	Ann Gastroenterol Surg 4:505-513, 2020 Jul	Review

102	Horino T, Baba Y, Nomoto D, et al.	消化器外科	Port site recurrence of esophageal adenocarcinoma after minimally invasive esophagectomy: a case report.	Surg Case Rep 6:98, 2020 May	Case report
103	Horino T, Hiyoshi Y, Miyamoto Y, et al.	消化器外科	Presacral lymph node recurrence of rectal intramucosal adenocarcinoma after endoscopic mucosal resection: a case report	Surg Case Rep 6:78, 2020 Apr	Case report
104	Imai K, Margonis GA, Wang J, et al.	消化器外科	Liver metastases from pancreatic ductal adenocarcinoma: is there a place for surgery in the modern era?	J Pancreatol 3:81-85, 2020 Jun	Review
105	Kitamura F, Okabe H, Yamashita YI, et al.	消化器外科	A case of successful transarterial stenting for pseudoaneurysm after pancreaticoduodenec tomy	JGH Open 4:764-765, 2020 Apr	Case report
106	Matsuishi K, Miyamoto Y, Hiyoshi Y, et al.	消化器外科	Ongoing 5-year+ survival after multiple metastasectomies, followed by CAPOX plus bevacizumab, for metastatic colorectal cancer	Surg Case Rep 6:149, 2020 Jun	Case report
107	Miyamoto Y, Hiyoshi Y, Sawayama H, et al.	消化器外科	Precision medicine for adjuvant chemotherapy of resected colorectal cancer	Ann Gastroenterol Surg 4:635-645, 2020 Dec	Review

108	Ofuchi T, Hayashi H, Yamao T, et al.	消化器外科	Colon cancer metastasis mimicking a hilar cholangiocarcinoma: a case report and literature review	Surg Case Rep 6:225, 2020 Dec	Case report
109	Ogawa D, Hayashi H, Kitamura F, et al.	消化器外科	Multiple cholangiocarcinomas in the intrahepatic and extrahepatic biliary tree due to dichloromethane exposure: a case report	Surg Case Rep 6:79, 2020 Dec	Case report
110	Sawayama H, Miyamoto Y, Ogawa K, et al.	消化器外科	Investigation of colorectal cancer in accordance with consensus molecular subtype classification	Ann Gastroenterol Surg 4:528-539, 2020 Jul	Review
111	Tajiri T, Hayashi H, Higashi T, et al.	消化器外科	Coexisting schwannoma of the gallbladder and sarcoidosis: a case report	Surg Case Rep 6:76, 2020 Apr	Case report
112	Yamane T, Eto K, Morinaga T, et al.	消化器外科	IgG4-related disease presenting as a submucosal tumor of the stomach resected with laparoscopic endoscopic cooperative surgery: a case report.	Surg Case Rep 6:93, 2020 May	Case report
113	Yamashita K, Iwatsuki M, Ajani JA, et al.	消化器外科	Programmed death ligand-1 expression in gastrointestinal cancer: Clinical significance and future challenges	Ann Gastroenterol Surg 4:369-378, 2020 Jun	Review

114	Yoshida N, Harada K, Iwatsuki M, et al.	消化器外科	Precautions for avoiding pulmonary morbidity after esophagectomy	Ann Gastroenterol Surg 4:480-484, 2020 Jun	Review
115	Yusa T, Okabe H, Yamashita Y- i, et al.	消化器外科	A case of inferior right hepatic vein- right hepatic vein bypass with interrupted inferior vena cava compressed by focal nodular hyperplasia in caudate lobe	Int Canc Conf J 10:11-14, 2020 Sep	Case report
116	Yamao T, Imai K, Yamashita YI, et al.	消化器外科	Thoracoscopic surgery for hepatocellular carcinoma located in the hepatic dome: Technical aspect and oncological results	Asian J Endosc Surg 13:375-381, 2020 Jul	Original Article
117	Yamamoto Y, Yamashiro H, Toh U, et al.	乳腺・内分泌外科	Prospective observational study of bevacizumab combined with paclitaxel as first- or second-line chemotherapy for locally advanced or metastatic breast cancer: the JBCRG- C05 (B-SHARE) study	Breast Cancer. 2021 Jan;28(1):145-160.	Original Article
118	Yamamoto Y, Goto- Yamaguchi L, Takeno M, et al.	乳腺・内分泌外科	Neoadjuvant endocrine therapy for estrogen receptor- positive primary breast cancer.	Chin Clin Oncol. 2020 Jun;9(2):30.	Review
119	Daiki Yoshii, Yukihiro Inomata, Hirotohi Yamamoto, et al.	小児外科・移植外科	The duodenal tube test is more specific than hepatobiliary scintigraphy for identifying bile excretion in the differential diagnosis of biliary atresia.	2020 Oct;50(10):1232- 1239	Original Article

120	Taizo Hibi, Yun Chen, Ji Il Kim, et al.	小児外科・移植外科	Current status of intestinal transplantation in East Asia	Curr Opin Organ Transplant . 2020 Apr;25(2):165- 168.	Review
121	Hidekazu Yamamoto, Yasuhiko Sugawara, Yuzuru Sambomatsu, et al.	小児外科・移植外科	Living donor domino liver transplantation in a hepatitis C virus/human immunodeficiency virus-coinfected hemophilia patient: a case report.	Surg Case Rep . 2020 Jul 29;6(1):184.	Case report
122	Daiki Yoshii, Yukihiro Inomata, Yoshihiro Komohara, et al.	小児外科・移植外科	Ki67 expression level at the time of Kasai portoenterostomy as a prognostic factor in patients with biliary atresia	BJS Open. 2020 Oct;4(5):873-883.	Original Article
123	Taizo Hibi , Mohamed Rela , James D Eason , et al.	小児外科・移植外科	Liver Transplantation for Colorectal and Neuroendocrine Liver Metastases and Hepatoblastoma. Working Group Report From the ILTS Transplant Oncology Consensus Conference	Transplantation 2020 Jun;104(6):1131-1135.	Review
124	Taizo Hibi , Alfred Kow Wei Chieh , Albert Chi- Yan Chan , et al.	小児外科・移植外科	Current status of liver transplantation in Asia	Int J Surg . 2020 Oct;82S:4-8	Review
125	Keita Shimata , Yasuhiko Sugawara , Tomoaki Irie, et al.	小児外科・移植外科	Asymptomatic hepatic artery dissection early after living-donor liver transplantation with simultaneous splenectomy: two case reports	BMC Gastroenterol . 2020 Nov 12;20(1):378.	Case report

126	Sho Ibuki , Taizo Hibi , Minoru Tanabe , et al.	小児外科・移植外科	Short-term Outcomes of "Difficult" Laparoscopic Liver Resection at Specialized Centers: Report From INSTALL (International Survey on Technical Aspects of Laparoscopic Liver Resection)-2	Ann Surg . 2020 Sep 1	Original Article
127	Yasuhiko Sugawara , Taizo Hibi	小児外科・移植外科	Surgical treatment of hepatocellular carcinoma	Biosci Trends . 2021 Mar 19	Original Article
128	Kodera C, Aoki S, Ohba T, et al.	産科婦人科	Clinical manifestations of placental mesenchymal dysplasia in Japan: A multicenter case series	JOGR. 2021 Mar;47(3):1118-1125	Original Article
129	Kido. J., Matsumoto. S., Ito. T., et al.	小児科	Physical, cognitive, and social status of patients with urea cycle disorders in Japan.	Mol Genet Metab Rep. 2021 Feb 7;27:100724	Original Article
130	Sawada. T., Kido. J., Sugawara. K., et al.	小児科	Detection of novel Fabry disease- associated pathogenic variants in Japanese patients by newborn and high-risk screening.	Mol Genet Genomic Med. 2020 Nov; 8(11): e1502	Original Article
131	Kido. J., Nakamura. K., Era. T	小児科	Role of induced pluripotent stem cells in lysosomal storage diseases	Mol Cell Neurosci. 2020 Oct; 108: 103540	Original Article

132	Sawada. T., Kido. J., Nakamura. K	小児科	Newborn Screening for Pompe Disease.	J. Neonatal Screen. 2020 Apr 5; 6(2): 31	Original Article
133	Kusunoki. S., Kido. J., Momosaki. K., et al.	小児科	Effect of Flunarizine on Alternating Hemiplegia of Childhood in a Patient with the p.E815K Mutation in ATP1A3: A Case Report	Case Rep Neurol. 2020 Sep 18; 12(3): 299-306	Case report
134	Kuraoka S, Tanigawa S, Taguchi A, et al.	小児科	PKD1 -Dependent Renal Cystogenesis in Human Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Ureteric Bud/Collecting Duct Organoids.	J Am Soc Nephrol'. 2020 Oct; 31(10): 2355-2371	Original Article
135	Kensaku Kohrogi, Masahiro Migita, Tadashi Anan, et al.	小児科	Successful Artery Embolization in a Patient with Autoimmune Lymphoproliferative Syndrome Associated with Splenic Rupture	Journal of Clinical Immunology. 2020 Jul; 40(5): 780-782	Letter
136	Tetsuo Naramura, Kenichi Tanaka, Takeshi Inoue, et al.	小児科	New reference ranges of procalcitonin excluding respiratory failure in neonates	Pediatr Int. 2020 Oct; 62(10): 1151-1157.	Original Article
137	Tetsuo Naramura, Hiroko Imamura, Hidetaka Yoshimatsu, et al.	小児科	The Predictive Value of Procalcitonin and High-Sensitivity C- Reactive Protein for Early Bacterial Infections in Preterm Neonates	Neonatology. 2021.Mar; 118(1): 28-36.	Original Article

138	Ideo K, Tokunaga T, Shukunami C, et al.	整形外科	Role of Scx+/Sox9+ cells as potential progenitor cells for postnatal supraspinatus enthesis formation and healing after injury in mice.	PLoS One 2020 Dec;15(12):e0242286	Original Article
139	Takayuki Ishibashi, Ikko Kajihara, Satoru Mizuhashi, et al.	皮膚科・形成再建科	Methyl-CpG binding domain protein 3: a new diagnostic marker and potential therapeutic target of melanoma.	Bioscience trends,2020 Nov,14(5):390-395	Original Article
140	S. Otsuka- Maeda, I. Kajihara, H. Kanemaru, et al.	皮膚科・形成再建科	Retrospective study of COL1A1-PDGFB fusion gene-positive dermatofibrosarcoma protuberans in Kumamoto University	Clinical and Experimental Dermatology,2020 Dec,45(8):1067-1068	Original Article
141	Haruka Kuriyama, Satoshi Fukushima, Toshihiro Kimura, et al.	皮膚科・形成再建科	Matrin-3 plays an important role in cell cycle and apoptosis for survival in malignant melanoma.	Journal of dermatological science,2020 Nov,100(2):110-119	Original Article
142	Toshihiro Kimura, Satoshi Fukushima, Etsuko Okada, et al.	皮膚科・形成再建科	Induced pluripotent stem cell-derived myeloid cells expressing OX40 ligand amplify antigen-specific T cells in advanced melanoma.	Pigment cell & melanoma research,2020 Sep,33(5):744-755	Original Article
143	Mihoko Kiyohara, Jun Aoi, Ikko Kajihara, et al.	皮膚科・形成再建科	Serum anti-p53 autoantibodies in angiosarcoma.	The Journal of dermatology,2020 Aug,47(8):849-854	Original Article

144	Nishimoto K, Toya Y, Davis CR, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Dynamics of vitamin A uptake, storage, and utilization in vocal fold mucosa	Molecular metabolism 2020 Oct;40: 101025	Original Article
145	Hirota K, Nishimoto K, Kumai Y, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Swallowing dysfunction following surgery for well-differentiated thyroid cancer with extrathyroid invasion	Int J Clin Oncol 2020 Nov;25(11): 1921-1927.	Original Article
146	Miyamaru S, Murakami D, Nishimoto K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Treatment Outcomes of Pulmonary Metastases from Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	Acta Med Okayama 2021 Feb; 75: 31-37	Original Article
147	Miyamoto T, Kumai Y, Matsubara K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Different types of dysphagia alleviated by the chin-down position	Auris Nasus Larynx 2021 Feb 27; S0385-8146(21)00066-3.	Original Article
148	○Yoshida R, Nagata M, Hirose A, et al.	歯科口腔外科学講座	Efficacy of adjuvant chemotherapy with S-1 in stage II oral squamous cell carcinoma patients: A comparative study using the propensity score matching method. 2020 Apr 15;15(4):e0231656. doi: 10.1371/journal.pone.0231656. eCollection 2020.	Plos One 2020 Apr 15;15(4):e0231656	Original Article
149	○Yamamoto T, Hirose A, Nakamoto M, et al.	歯科口腔外科学講座	BRD4 promotes metastatic potential in oral squamous cell carcinoma through the epigenetic regulation of the MMP2 gene. 2020 Aug;123(4):580-590. doi: 10.1038/s41416-020-0907-6. Epub 2020 Jun 5.	British journal of cancer 2020 Aug;123(4):580-590	Original Article

150	○Kawahara K, Hiraki A, Arita H, et al.	歯科口腔外科学講座	Role of serum amylase and salivary cytokines in oral complications during chemoradiotherapy. 2020 Oct 20. doi: 10.1111/odi.13686. Online ahead of print.	Oral diseases 2020 Oct	Original Article
151	○Yoshida R, Gohara S, Sakata J, et al.	歯科口腔外科学講座	Onodera's prognostic nutritional index correlates with tumor immune environment and survival in patients with oral squamous cell carcinoma undergoing chemoradiotherapy. 2020 Dec;13(12):100850. doi: 10.1016/j.tranon.2020.100850. Epub 2020 Aug 24.	Translational Oncology 2020 Dec;13(12):100850	Original Article
152	○Takahashi N, Hiraki A, Kawahara K, et al.	歯科口腔外科学講座	Postoperative delirium in patients undergoing tumor resection with reconstructive surgery for oral cancer. 2021 Mar;14(3):60. doi: 10.3892/mco.2021.222. Epub 2021 Jan 24.	Molecular and clinical oncology 2021 Mar;14(3):60	Original Article
153	Kidoh M, Oda S, Takashio S, et al.	画像診断・治療科	Dynamic evaluation of myocardial extracellular volume fraction using dual-layer spectral detector computed tomography	Eur Heart J Case Rep. 2020 Oct 27;4(6):1-2.	Case report
154	Oda S, Kidoh M, Nagayama Y, et al.	画像診断・治療科	Non-Invasive Imaging in Pulmonary Hypertension - Comprehensive Assessment Using Dual-Layer Spectral Computed Tomography	Circ J. 2021 Feb 25;85(3):316.	Case report
155	Kidoh M, Oda S, Nakato K, et al.	画像診断・治療科	Assessment of cardiac implantable electric device lead perforation using a metal artifact reduction algorithm in cardiac computed tomography	Eur J Radiol. 2021 Mar;136:109530.	Original Article

156	Nakaura T, Higaki T, Awai K, et al.	画像診断・治療科	A primer for understanding radiology articles about machine learning and deep learning	Diagn Interv Imaging. 2020 Dec;101(12):765-770.	Original Article
157	Sakamoto F, Shiraishi S, Kitajima M, et al.	画像診断・治療科	Diagnostic Performance of (123)I-FPCIT SPECT Specific Binding Ratio in Progressive Supranuclear Palsy: Use of Core Clinical Features and MRI for Comparison	AJR Am J Roentgenol. 2020 Dec;215(6):1443-1448.	Original Article
158	Uetani H, Nakaura T, Kitajima M, et al.	画像診断・治療科	A preliminary study of deep learning-based reconstruction specialized for denoising in high-frequency domain: usefulness in high-resolution three-dimensional magnetic resonance cisternography of the cerebellopontine angle	Neuroradiology. 2021 Jan;63(1):63-71.	Original Article
159	Nagayama Y, Inoue T, Oda S, et al.	画像診断・治療科	Adrenal Adenomas versus Metastases: Diagnostic Performance of Dual-Energy Spectral CT Virtual Noncontrast Imaging and Iodine Maps	Radiology. 2020 Aug;296(2):324-332.	Original Article
160	Oda S, Kidoh M, Nagayama Y, et al.	画像診断・治療科	Trends in Diagnostic Imaging of Cardiac Amyloidosis: Emerging Knowledge and Concepts	Radiographics. 2020 Jul-Aug;40(4):961-981.	Review
161	Oda S, Kidoh M, Takashio S, et al.	画像診断・治療科	Identification of Wild-Type Transthyretin Cardiac Amyloidosis by Quantifying Myocardial Extracellular Volume Using Cardiac Computed Tomography in Atrial Arrhythmias	Circ Cardiovasc Imaging. 2020 Jun;13(6):e010261.	Case report

162	Oda S, Kidoh M, Takashio S, et al.	画像診断・治療科	Quantification of Myocardial Extracellular Volume With Planning Computed Tomography for Transcatheter Aortic Valve Replacement to Identify Occult Cardiac Amyloidosis in Patients With Severe Aortic Stenosis	Circ Cardiovasc Imaging. 2020 May;13(5):e010358.	Letter
163	Sakamoto F, Shiraishi S, Ogasawara K, et al.	画像診断・治療科	A diagnostic strategy for Lewy body disease using DAT-SPECT, MIBG and Combined index	Ann Nucl Med. 2020 Jun;34(6):415-423.	Original Article
164	Yokota Y, Takeda C, Kidoh M, et al.	画像診断・治療科	Effects of Deep Learning Reconstruction Technique in High-Resolution Non-contrast Magnetic Resonance Coronary Angiography at a 3-Tesla Machine	Can Assoc Radiol J. 2021 Feb;72(1):120-127.	Original Article
165	Shiraishi S, Tsuda N, Sakamoto F, et al.	画像診断・治療科	Clinical usefulness of quantification of myocardial blood flow and flow reserve using CZT-SPECT for detecting coronary artery disease in patients with normal stress perfusion imaging	J Cardiol. 2020 Apr;75(4):400-409.	Original Article
166	Kidoh M, Shinoda K, Kitajima M, et al.	画像診断・治療科	Deep Learning Based Noise Reduction for Brain MR Imaging: Tests on Phantoms and Healthy Volunteers	Magn Reson Med Sci. 2020 Aug 3;19(3):195-206.	Original Article

小計 5

167	Ryo Toya, Tetsuo Saito, Tomohiko Matsuyama, et al.	放射線治療科	Diagnostic Value of FDG-PET/CT for the Identification of Extranodal Extension in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.	Anticancer research 40(4) 2073-2077 2020 Apr	Original Article
168	Takahiro Watakabe, Ryo Toya, Tetsuo Saito, et al.	放射線治療科	High Spatial Resolution Digital Positron Emission Tomography Images With Dedicated Source- tobackground Algorithm for Radiotherapy Planning	Anticancer research 40: 2567-2572 (May 2020)	Original Article
169	Ryo Toya, Tetsuo Saito, Kohsei Yamaguchi, et al.	放射線治療科	Hypofractionated palliative volumetric modulated arc radiotherapy with the Radiation Oncology Study Group 8502 "QUAD shot" regimen for incurable head and neck cancer.	Radiation Oncology 15, Article number:123 2020 May	Original Article
170	Tetsuo Saito, Naoki Nakamura, Kenta Murotani. et al.	放射線治療科	Index and Non-index Pain Endpoints in Radiation Therapy for Painful Tumors:A Secondary Analysis of a Prospective Observational Study	Advances in Radiation Oncology 2020 Oct 26;5(6):1118-112	Review
171	Ryo Toya, Tetsuo Saito, Tomohiko Matsuyama, et al.	放射線治療科	QUAD shot: an effective cyclical hypofractionated palliative radiotherapy for salivary gland carcinoma	BJR Case Rep. 2020 Jun 12;6(4):20190132	Case report

小計 5

172	Tetsuo Saito, Naoto Shikama, Atsunori Yorozu, et al.	放射線治療科	Inconsistencies in assessment of pain endpoints in radiotherapy for painful tumors: Analysis of original articles in the Green and Red Journals	Clinical and Translational Radiation Oncology 2020 Jul 24;111-115	Original Article
173	Han G, Maruta M, Ikeda Y, et al.	神経精神科	Relationship between performance on the Mini-Mental State Examination sub-items and activities of daily living in patients with Alzheimer's Disease.	Journal of Clinical Medicine. 2020 May 20;9(5):1537.	Original Article
174	Fujiyama H, Sugawara H, Kanno T, et al.	神経精神科	Combination therapy of brexpiprazole and aripiprazole for an adolescent patient with a first episode of schizophrenia: a case report.	Psychiatry and Clinical Neurosciences. 2020 Dec;74(12):666-667.	Letter
175	Kawahara K, Ushijima H, Usami M, et al.	神経精神科	No associations of psychological symptoms and suicide risk with disaster experiences in junior high school students 5 years after the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami.	Neuropsychiatric Disease and Treatment 2020 Oct 15;16:2377-2387.	Original Article
176	Kajitani N, Okada-Tsuchioka M, Kano K, et al.	神経精神科	Differential anatomical and cellular expression of lysophosphatidic acid receptor 1 in adult mouse brain.	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2020 Oct 15;531(2):89-95.	Original Article
177	Sasaki H, Jono T, Fukuhara R, et al.	神経精神科	Late-onset attention-deficit/hyperactivity disorder as a differential diagnosis of dementia: a case report.	Psychiatry 2020 Nov 23;20(1):550.	Case report

178	Hayashi K, Hasegawa Y, Takemoto Y, et al.	脳神経外科	Enhanced oxidative stress contributes to worse prognosis and delayed neurofunctional recovery after striatal intracerebral hemorrhage in 5XFAD mice.	Eur J Neurosci. 2020 Apr;51(8):1806-1814.	Original Article
179	Tadashi Hamasaki, Tatsuya Takezaki, Shigetoshi Yano, et al.	脳神経外科	Efficacy of lumbar spinal drainage for straightforward approach in reoperation via lateral suboccipital retrosigmoid craniotomy	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management 23: 100915 2021Mar	Original Article
180	Nakamura S, Nonaka T, Yoshida K, et al.	麻酔科	Neuropeptide W, an endogenous NPBW1 and NPBW2 ligand, produced an analgesic effect via activation of the descending pain modulatory system during a rat formalin test.	Molecular Pain 17:1-9, 2021 Jan	Original Article
181	Kumamoto T, Tashima K, Hiraoka C, et al.	麻酔科	McGRATH MAC video laryngoscope assistance during transesophageal echocardiography may reduce the risk of complications: a manekin study.	BMC Anesthesiol 21:14,2021 Jan	Original Article
182	Nakashima T, Sagishima K, Suenaga H, et al.	麻酔科	Untreated vertebral osteomyelitis extending to the mediastinum and lungs.	BMJ Case Rep 2020 Aug;13:e236249.	Case report
183	Usuku H, Takashio S, Yamamoto E, et al.	中央検査部	Usefulness of relative apical longitudinal strain index to predict positive 99mTc-labeled pyrophosphate scintigraphy findings in advanced-age patients with suspected transthyretin amyloid cardiomyopathy	Echocardiography 2020 Nov. 37(11):1774-1783	Original Article

小計 6

184	Usuku H, Yamamoto E, Nishi M, et al.	中央検査部	Temporal Change in Longitudinal Strain After Domino Liver Transplantation With Liver Grafts Explanted From Patients With Hereditary Amyloidogenic Transthyretin Amyloidosis	Circulation Reports 2020 Nov. 2(12):730-738	Original Article
185	Usuku H, Yamamoto E, Oike F, et al.	中央検査部	Current Awareness and Status of Transthoracic Echocardiography in Kumamoto Prefecture -A Report of the Kumamoto Cardiovascular Echocardiography Standardization Project-	Circulation Reports 2020 Apr. 2(6):297-305	Original Article
186	Maeshiro M*, Shinriki S*, Liu R, et al.	中央検査部	Colonization of distant organs by tumor cells generating circulating homotypic clusters adaptive to fluid shear stress	Scientific Reports 2021 Mar. 11(1):6150 (オンライ ン)	Original Article
187	Shinriki S, Maeshiro M, Shimamura K, et al.	中央検査部	Evaluation of an amplicon-based custom gene panel for the diagnosis of hereditary tumors	Neoplasma 2020 Jul. 67(4):898-908	Original Article
188	Hirayama M, Wei FY, Chujo T, et al.	中央検査部	FTO Demethylates Cyclin D1 mRNA and Controls Cell-Cycle Progression	Cell Reports 2020 Apr. 31(1):107464 (オンライン)	Original Article
189	Sakabe D, Nakaura T, Oda S, et al.	医療技術部	Decreasing the radiation dose for contrast-enhanced abdominal spectral CT with a half contrast dose: a matched-pair comparison with a 120 kVp protocol	BJR Open . 2020 Dec 11;2(1)	Original Article

190	Sakabe D, Fukui T, Oda S, et al.	医療技術部	Noninvasive flow evaluations of coronary artery bypass grafting using dynamic cardiac CT	Medicine (Baltimore) .2020 Nov 25;99:48(e23338)	Original Article
191	Yudai Kai, Ryo Toya, Tetsuo Saito, et al.	医療技術部	Stereotactic Body Radiotherapy Based on 99mTc-GSA SPECT Image-guided Inverse Planning for Hepatocellular Carcinoma	In Vivo. Nov-Dec 2020;34(6):3583-3588.	Case report
192	Shimohigashi Y, Toya R, Saito T, et al.	医療技術部	Impact of four-dimensional cone-beam computed tomography on target localization for gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma radiotherapy: reducing planning target volume	Radiation Oncology,2021 Jan 14;16(1):14.	Original Article
193	Kentaro Tokunaga, shoichiro Kusunoki, Yurika Hanazono, et al.	集中治療部	Malposition of femoral venous catheter into the hepatic vein	'Journal of Emergency and Critical Care Medicine'2020 Oct ;4:35	Case report
194	Fujisue K	医療の質・安全管理部	Effects of Statin Plus Ezetimibe on Coronary Plaques in Acute Coronary Syndrome Patients with Diabetes Mellitus: Sub-Analysis of PRECISE-IVUS Trial.	J Atheroscler Thromb. 2021 Feb;28:181-193.	Original Article
195	Naito H, Sueta D, Nakayama H, et al.	災害医療教育研究センター	Clinical Features of Disaster-Associated Direct Deaths during Recent Inland Earthquakes in Japan.	Tohoku J Exp Med. 2020 Jul;251(3):169-173.	Original Article

196	Miyake S, Miwa T, Yoneda G, et al.	薬剂部	Relationship between clinicopathological characteristics and CYLD expression in patients with cholesteatoma.	PLoS One. 2020 Oct 8;15(10):e0240216	Original Article
197	Hashiguchi Y, Oda K, Katanoda T, et al.	薬剂部	Clinical evaluation of cefotiam in the treatment of bacteremia caused by Escherichia coli, Klebsiella species, and Proteus mirabilis: A retrospective study.	J Infect Chemother. 2020 Nov;26(11):1158- 1163	Original Article
198	Oda K, Jono H, Nosaka K, et al.	薬剂部	Reduced nephrotoxicity with vancomycin therapeutic drug monitoring guided by area under the concentration-time curve against a trough 15-20 μ g/mL concentration.	Int J Antimicrob Agents. 2020 Oct;56(4):106109	Original Article
199	Oda K, Jono H, Kamohara H, et al.	薬剂部	Development of Vancomycin Dose Individualization Strategy by Bayesian Prediction in Patients Receiving Continuous Renal Replacement Therapy.	Pharm Res. 2020 May 28;37(6):108	Original Article
200	Oda K, Jono H, Sagishima K, et al.	薬剂部	Augmented teicoplanin clearance through probable adsorption onto a polymethyl methacrylate (PMMA) hemofilter during continuous venovenous hemodiafiltration.	J Infect Chemother. 2020 Sep;26(9):992-994	Case report
201	Narita Y, Fukumoto K, Fukunaga M, et al.	薬剂部	Comparative Study of Constipation Exacerbation by Potassium Binders Using a Loperamide- Induced Constipation Model.	Int J Mol Sci. 2020 Apr 3;21(7):2491	Original Article

202	Oda K, Miyakawa T, Katanoda T, et al.	薬剤部	A case of recovery from aphasia following dose reduction of cefepime by bayesian prediction-based therapeutic drug monitoring.	J Infect Chemother. 2020 May;26(5):498-501	Case report
203	Oda K, Katanoda T, Hashiguchi Y, et al.	薬剤部	Development and evaluation of a vancomycin dosing nomogram to achieve the target area under the concentration-time curve. A retrospective study.	J Infect Chemother. 2020 May;26(5):444-450	Original Article
204	Oda K, Fujii S, Yamamoto T, et al.	薬剤部	Evaluation of once-daily dosing and target concentrations in therapeutic drug monitoring for arbekacin: A meta-analysis.	J Infect Chemother. 2021 Jan;27(1):26-31	Original Article

小計 3

計 204件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Gushima R, Naoe H, Iwasaki H, et al.	消化器内科	膵転移を来した膀胱 小細胞癌の1例	日本消化器内視鏡学会 誌, 2020;62(12),3072-3078	Case report
2	Horibe T, Noguchi R, Takaki J, et Al.	心臓血管外科	腸骨動脈ステント留 置後の感染性仮性 動脈瘤に対する一手 術例.	日本血管外科学会雑誌. 2020;29:225-229.	Case report
3	Murakami M, Hara C, Yamanaka K, et Al.	泌尿器科	左腎周囲に発生した 未分化多形肉腫の1 例	西日本泌尿器科. 2020;82(3):391-396.	Case report
4	Fuke S, Hara C, Imagawa D, et al.	泌尿器科	腎癌肺転移切除後 に発生した肉芽腫の 1例	西日本泌尿器科. 2020;82(2):318-321.	Case report
5	Yoshimura S, Kodera C, Ito F, et al.	産科婦人科	原発性無月経の診 断における骨盤MRI 検査の役割	女性医学会誌 2021年1 月, 28:278-282	Original Article
6	Yamamoto M, Yamaguchi M, Ohba T, et al.	産科婦人科	出生前診断により Body stalk anomaly の適切な周産期管理 を行えた二絨毛膜 二羊膜相対妊娠の 一例	熊本産科婦人科学会雑 誌 2020, 65: 43-47	Case report

小計 6

7	Sagara A, Yamaguchi M, Ohba T, et al.	産科婦人科	子宮内腔側発育した 卵管間質部妊娠の1 例	熊本産科婦人科学会雑 誌 2020, 65: 49-54	Case report
8	Nakamura S, Saito F, Kamio M	産科婦人科	内分泌学的動態の 評価が術前診断に寄 与した肺癌卵巣転移 の一例	熊本産科婦人科学会雑 誌 2020, 65: 101-106	Case report
9	Taura Y, Ohba T, Sasaki R, et al.	産科婦人科	妊娠初期に出生前 遺伝学的検査を希望 する高齢妊婦におけ る胎児超音波検査の 役割	日本周産期・新生児医学 会雑誌 2020, 56: 78-84	Original Article
10	Mizukami Y, Kanemaru H , Kashiwada K, et al.	皮膚科・形成再建科	臍腫瘍として発見さ れた原発不明悪性黒 色腫に対し BRAF/MEK阻害剤 が奏効した1例	日本皮膚科学科学会雑 誌、2020年5月、130(5)、 1249	Case report
11	Kuriyama H, Fukushima S, Nakahara S , et al.	皮膚科・形成再建科	免疫チェックポイント 阻害薬で治療中に重 症の血管内凝固を生 じた悪性黒色腫の1 例	日本皮膚科学会雑誌、 2020年5月 130(5) 1191 - 1192	Case report
12	Matsumura T, Nakashima KI, Takahashi E, et al.	眼科	落屑緑内障に対する バルベルトチューブ シャント手術の成績	日本眼科学会雑誌 2021 Feb; 125: 111-6	Original Article

小計 6

13	Nakanishi M, Nakashima KI, Inoue T	眼科	悪性緑内障に対する マイクロパルス経強 膜毛様体光凝固術 が奏功した1症例	あたらしい眼科 2020 Oct; 37: 1319-21	Case report
14	Matsuoka Y, Yoshida R; Hirosue A, et Al.	歯科口腔外科学講座	鎖骨上窩と上縦隔に 波及した舌下顎下型 ラヌーラの1例	日本口腔外科学会雑誌 66(5), 261-5, 2020年5月	Case report
15	Kwahara K, Ymana K, Kawaguchi S, et Al.	歯科口腔外科学講座	歯性感染症に起因し 緊急の気道確保を要 した下行性壊死性縦 隔炎の1例	日本口腔外科学会雑誌 67(2), 95-9, 2021年2月	Case report
16	Takasaki A, Hashimoto M, Fukuhara R, et Al.	神経精神科	意味性認知症患者 の自動車運転中止を めぐる状況と対応に 関する一考察.	Dementia Japan, 34:295- 304, 2020年9月	Original Article
17	HAN G, Maruta M, Takahashi H, et Al.	神経精神科	脳血管障害患者の 情報処理型による表 情識別能力の相違 および認知機能評価 との関連性.	日本作業療法研究学会 雑誌, 23(1):17-23, 2020	Original Article
18	Kumamoto T, Yuruki T , Hiraoka C, et al.	麻酔科	左内頸静脈に挿入し た中心静脈カテーテ ルが予期せぬ静脈に 迷入した2症例	麻酔 70巻1号 Page73- 76(2021.01)	Case report

小計 6

19	Naito H, Taniguchi K, Park J, et Al.	災害医療教育研究センター	頭頸部重症感染症 後に舌圧低下を認め た高齢患者に対し、 舌圧測定での定量的 評価を行った1例	老年歯学, 35:135-141, 2020	Case report
20	Kasaoka S, Kaneko T, Harada M et al.	災害医療教育研究センター	低血糖症例に対する 救急救命士による 20%ブドウ糖溶液投 与の効果	日本臨床救急医学会雑 誌 2020; 23: 146-150	Others

小計 2 計 20件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 研究者、研究責任者、研究部長及び病院長の責務 人を対象とした医学系研究倫理審査申請の受付から審査までの業務手順 研究開始から終了に係る業務手順 研究の倫理、研究実施に必要な知識および技術に関する教育・研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年9回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 熊本大学大学院生命科学研究部等臨床研究利益相反審査委員会の設置 臨床研究にかかる利益相反申告書の提出 委員会による審査結果、指導・勧告、異議申し立て、情報開示	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年610回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
-----------------------	-----

・研修の主な内容

責任ある研究行為について

研究の再現性の適正な表現と信頼性について

臨床研究の実施における留意事項について

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">・ 英語論文の抄読会・ 新患カンファレンス・ 手術カンファレンス・ 病理カンファレンス・ 画像診断カンファレンス・ リサーチカンファレンス・ 症例検討会・ 実習トレーニング・ スキルアップセミナー・ 各種勉強会・ 教員レクチャー など

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	269.833人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
坂上 拓郎	呼吸器内科	教授	23年	
田中 靖人	消化器内科	教授	29年	
松岡 雅雄	血液内科	教授	38年	
松岡 雅雄	膠原病内科	教授	38年	
向山 政志	腎臓内科	教授	37年	
荒木 栄一	糖尿病・代謝・ 内分泌内科	教授	37年	
辻田 賢一	循環器内科	教授	22年	
植田 光晴	脳神経内科	教授	21年	
福井 寿啓	心臓血管外科	教授	26年	
鈴木 実	呼吸器外科	教授	31年	
馬場 秀夫	消化器外科	教授	36年	
山本 豊	乳腺・内分泌外 科	准教授	29年	
日比 泰造	小児外科	教授	22年	
日比 泰造	移植外科	教授	22年	
神波 大己	泌尿器科	教授	28年	
片瀨 秀隆	婦人科	教授	38年	
中村 公俊	小児科	教授	30年	
片瀨 秀隆	産科	教授	38年	
宮本 健史	整形外科	教授	32年	
福島 聡	皮膚科	准教授	22年	
井上 俊洋	眼科	教授	23年	

折田 頼尚	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	24年	
中山 秀樹	歯科口腔外科	教授	24年	
池田 理	画像診断・治療科	准教授	29年	
大屋 夏生	放射線治療科	教授	33年	
竹林 実	神経精神科	教授	28年	
武笠 晃丈	脳神経外科	教授	26年	
山本 達郎	麻酔科	教授	38年	
松井 啓隆	中央検査部	教授	25年	
笠岡 俊志	災害医療教育研究センター	教授・センター長	34年	救急
三上 芳喜	病理部	教授	30年	
松岡 雅雄	感染免疫診療部	教授	38年	
松井 邦彦	地域医療・総合診療実践学寄附講座（地域医療支援センター）	教授・センター長	31年	総合診療

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

【薬剤部】

職員研修を目的として、定期的に①「薬剤管理指導検討会」及び②「新薬説明会」、また、不定期に③「くすりの勉強会」及び④「新採用病棟業務研修会」を開催している。

【看護部】

教育理念・教育方針のもと毎年院内教育計画を策定し、実施している。

【中央検査部】

特定機能病院として、高度な臨床検査体制を構築するため、別紙の研修をスタッフ全員に対して行っており、臨床検査の精度保証の向上に努めている。

【ME機器センター】

特定機能病院として、医療機器使用を伴う高度な診療や検査等に対応できるよう、研修を実施している。

【中央放射線部】

特定機能病院としての高度な救急医療や高精度な放射線治療に対応できるよう、研修を実施している。

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

【薬剤部】

別紙（1）のとおり

【看護部】

別紙（2）のとおり

【中央検査部】

別紙（3）のとおり

【ME機器センター】

別紙（4）のとおり

【中央放射線部】

別紙（5）のとおり

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容・・・「個人情報保護」、「院内感染対策」、「医療安全管理」及び「医療機器の安全な使用について」について、医療業務に携わる上で、各職員が必ず習得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知徹底させる

・研修の期間・実施回数・・・令和2年4月1日(水) 外

※採用者があり次第、随時実施

・研修の参加人数・・・278名

(内訳：4月1日採用者121名、中途採用者94名、復職者63名)

※令和2年度実績

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

研修名	期間	実施回数	参加人員	備考
①薬剤管理指導検討会	毎月1回1時間程度	7回	平均 23名	
②新薬説明会	月に2-3日(1日3回に分けて20分ずつ)	26回	平均 38.3名	
③くすりの勉強会	必要に応じ開催(1~2時間)	3回	平均 21.3名	
④新採用病棟業務研修	必要に応じ開催(30分~1時間程度)	6回	平均 6.8名	

【薬剤部】

2020年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
新規採用者オリエンテーション	2020年度新規採用者 2019年度中途採用者(2020年4月採用者)	病院・看護部の組織と機能を学び、看護師としての心構えを習得できる。	病院の組織構造・看護師としての心構え・患者サービス、院内感染対策、医療安全管理、個人情報、医療倫理他	e-ラーニング	4/1~7	病院長、看護部長、事務部長、各診療・医療技術部門長、事務職員	各部署	59人	
新人看護師のためのメンタルヘルス	2020年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	メンタルヘルスとは何かを知り、自身の心の健康状態に気づきストレスに対応できる	1) 職場における心の健康づくり 2) 職場におけるメンタルヘルス対策	講義	中止	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	中止	中止	中止
社会人としての基本姿勢とコミュニケーションI	2020年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	1) 社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2) 社会人として「報告・連絡・相談」を実施できる 3) 組織における役割、心構えを理解する	組織における役割・心構えコミュニケーションの取り方	講義	4/1(木) 8:40~9:50	教育委員会 牛島輝美看護師長	東病棟12階多目的ホール	59人	50分
看護倫理	2020年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	看護者の倫理とは何かを理解し、日常の看護ケアの中で看護師としてどのように行動すべきかを学ぶ	1) 看護者の倫理綱領 2) 看護ケアにおける倫理的問題実践事例の検討	e-ラーニング	4/1~7	がん看護専門看護師 岡本泰子看護師長	e-ラーニング	59人	
現場における医療安全	2020年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	医療安全管理に関する基本的な考え方を理解する	1) 組織における医療安全 2) ダブルチェックの方法	e-ラーニング	4/1~7	医療の質・安全管理部 田口由美子看護師長	各部署	59人	
感染対策基礎研修	2020年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	感染対策の基本を理解し、感染予防のための手指衛生と個人防護具の着脱の実践ができる	1) 院内感染対策の基本 2) 標準予防策と感染経路別予防策 3) 針刺し・血液体液曝露防止対策 4) 医療廃棄物の分別方法・取り扱い方法 5) 演習(個人防護具の着脱方法・手指消毒)	e-ラーニング	4/1~7	藤本陽子 手塚美奈 吉田真由美 感染管理認定看護師	各部署	59人	

2020年度 看護部 院内教育計画表

別紙(2)

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
新規採用者PC研修	2020年度新規採用者	KAJU2の基本操作を学び、日常業務に活用できる	<ul style="list-style-type: none"> KAJU2の基本操作 診療録のデモンストレーション 操作演習 サイボウズの掲示板、共有フォルダBの閲覧方法とメールの送受信方法 	演習	4/8(水) 部署の都合のレイン時間 帯で2時間	看護情報リンクナース	各部署	59人	2時間
新規採用看護師基礎研修(注射与薬・輸液ポンプ)	2020年度新規採用看護師	<ol style="list-style-type: none"> 1) 注射与薬のプロセスを理解し、実践に活かす 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの原理と使用方法を理解し、実践に活かす 	<ul style="list-style-type: none"> 注射与薬プロセスおよび輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法 	講義演習	4/11(土) 8:00~16:45	安全リンクナース、実地指導者、看護部安全対策委員会	各部署	新規採用者61名	7時間45分
看護記録基礎研修(STEP1)	2020年度新卒の新規採用者	看護記録の意義を理解し、観察した患者状態を記録できる	<ul style="list-style-type: none"> 看護記録の意義 バイタルサイン測定後の記録 	e-ラーニング	4/17(金) 1時間	川本宏行看護師長、看護情報委員会	各部署	59人	1時間
トランスフューザー研修	2020年度新規採用看護師	安全なトランスフューザー技術を理解し習得する	<ol style="list-style-type: none"> 1) トランスフューザー技術の理解 2) トランスフューザー技術の習得 	講義演習	中止	熊本大学病院 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	中央診療棟2階 リハビリテーション部	中止	中止
心電図モニター基礎研修	2020年度新規採用看護師	心電図モニター使用時の取り決めと安全管理について理解できる	<ol style="list-style-type: none"> 1) セントラルモニターとベットサイドモニター、送信機について 2) 心電図モニターとナースコールの連動について 3) 心電図モニター装着時の取り決めについて 4) 心電図モニター装着中の管理について 	e-ラーニング	6/15(月)~ 7/15(月) 各部署で2時間	医療技術部ME機器技術部門 臨床工学士 山下 大輔 看護部安全リンクナース	各部署	58人	2時間

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
糖尿病看護基礎研修	2020年度採用看護師(任期付看護師除く)58人	糖尿病に対する知識・技術を身につけ、安全な看護が提供できる	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病とは インスリン療法の基礎知識 実技演習 糖尿病看護とリスクマネジメント 	講義 演習	4/23(木) eラーニング講義1時間 演習1時間30分 10:00~11:30 13:00~14:30 14:40~16:10 いずれかの時間に参加	藤本美枝糖尿病看護認定看護師 日本糖尿病療養指導士(CDE)15名	東病棟12階多目的ホール・患者多目的室・セミナー室2・セミナー室3	58人	2時間30分
PNS研修	2020年度新規採用看護師	<ol style="list-style-type: none"> 1) PNS場面におけるロールプレイを通して、PNSの意義、マインドを理解できる 2) 自己の行動を振り返り、看護実践に活用できる 	PNSの気付き ・事例を通して気になった場面を検討する ・自己の行動を考える	講義 GW ロールプレイ	6/26(金) 13:00~14:10	副看護師長PNSグループ	eラーニング	57人	1時間10分
社会人としての基本姿勢とコミュニケーションII	2020年度新規採用看護師(任期付看護師除く)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会人として自覚と責任ある行動が取れる 2) 社会人として「報告・連絡・相談」を実施できるができる。 3) 組織における役割、心構えを理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学研eラーニング基礎習得コース「看護職としての社会人基礎力とは」 2) 看護助理念をふまえた社会人としての基本姿勢について 	講義 GW	6/26(金) 14:10~16:00	教育委員会 牛島輝美看護師長	eラーニング	55人	1時間50分
新人ピアカウンセリング研修	2020年度新規採用者人	ピアカウンセリングによりリアリティショックを緩和する	・3ヶ月間の振り返り ・気持ちの共有	GW	中止	教育委員	東病棟12階多目的ホール	中止	中止
看護記録基礎研修I情報収集の仕方と整理(STEP II)	2020年度新卒新規採用看護師(既卒者・経験者除く)	看護過程の概念を学び、NANDA-Iの13領域にそった情報収集と整理ができる	<ul style="list-style-type: none"> 看護過程とは NANDA-Iの13領域にそった情報収集と整理 グループワーク(ペーパーペインシメント事例を用いた情報の整理) 	講義 GW 発表	7/13(月) 13:00~16:45	川本宏行看護師長(看護情報委員会)	東病棟12階多目的ホール	52人	3時間45分

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
IV基礎研修	2020年度新卒新規採用看護師	安全な静脈注射を実施するための知識、基本的な技術・態度を習得する 本院の静脈注射実施基準を理解し、倫理的側面を考慮した行動がわかる 静脈注射に必要な薬理作用・解剖生理学を理解し実践にいかすことができる 静脈注射に必要な安全・感染管理の知識を習得し、実践に活用できる 緊急時の報告・連絡ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・静脈注射実施基準と法的責任・教育計画 ・静脈注射に必要な解剖・生理基礎知識 ・静脈注射に必要な緊急時の看護 ・静脈注射に必要な感染管理 ・静脈注射に必要な安全管理 	e-ラーニング 講義 筆記 試験	6/12(金) 9:00~15:30	教育委員会 牛島輝美看護師長 脳神経内科 植田明彦先生 葉学部部长 斎藤秀之先生 救急看護認定看護師 村上志穂認定看護師 感染管理認定看護師 手塚美奈副看護師長 医療の室・安全管理部 GRM 田口由美子看護師長	各部署	59人	5時間30分
フィジカルアセスメント基礎研修/BLS(Basic Life Support)研修	2020年度新規採用看護師	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント基礎研修 1)フィジカルアセスメント技術と異常のアセスメントができる 2)呼吸・循環・意識・腹部・腹部のフィジカルアセスメントに必要な知識を学ぶ ・BLS研修 1)一次救命処置の概要を理解し、技術を修得する 2)AEDを正しく理解し、使用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィジカルアセスメント基礎研修 1)問診・視診・触診・聴診に必要知識 2)フィジカルアセスメント技術の演習 3)シミュレーションを活用した正常と異常の判断 ・BLS研修 BLSについて 	講義 演習 GW	8/25(火) 8/26(水) (※いずれか1日に参加) 8:00~16:45	集中ケア認定看護師 田中貴子 船中リハビリテーション看護認定看護師 小松祐美 救急看護認定看護師 村上志穂	中央診療棟7階 総合臨床研修センター カーンアレンス 室・演習室	8/25:29人 8/26:27人	7時間45分
新人研修「看護の中の気づき～患者から学ぶ～」	2020年度新規採用看護師	事例の振り返りやグループディスカッションを通して、自己の課題を明確にし、看護実践に活かせる	看護の中の気づき ・事例を通して看護の振り返りをする ・自己の課題を見いだす	講義 GW、必要時にロールプレイ	11/28(土) 9:00~13:00	聖マリアンナ学院大学 教授 日高艶子先生 グループワークファシリテーター、教育担当副看護師長、教育委員	東病棟12階多目的ホール・患者多目的室・セミナー室2・セミナー室3・看護部多目的室、中央診療棟7階カンファレンス室、演習室(1~9)・シミュレーション室1	63人	4時間
看護OSCE	2020年度新規採用者、2020年度新規採用者以外のリーダー未取得者	基本的臨床実践能力を客観的に評価し、自己の課題を明確にする	設定した模擬患者で課題を実施し、評価を受ける	OSCE (客観的臨床能力試験)	2021年1/29(金)~2/5日(金) 9:00~16:00	教育委員会が評価表に基づいて行う	中央診療棟7階演習室4~6、シミュレーション室1	56人	6時間

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
がん看護 (基礎編)	レベルⅠ以上	がん看護の基礎的知識を理解し、実践に活かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア がん化学療法看護 がん放射線療法看護 がん性疼痛看護 がん患者における精神的ケア 	講義	7/17(金) 8:30～14:10	がん看護専門看護師 石坂暁子 緩和ケア認定看護師 高野いづみ がん性疼痛看護認定 看護師 前田望花 がん化学療法看護認 定看護師 森奈緒美	各部署にてe-ラー ニング視聴	40人	5時間40分
看護過程研修	レベルⅠ以上	看護過程を理解し、事例を展開することができる	<ul style="list-style-type: none"> NANDA13領域の各項目の意義、情報収集、アセスメントについて 看護過程について 	講義 GW	10/19(月) 9:00～16:30	熊本大学大学院生命 科学研究部准教授 松本智晴先生	東病棟12階多目的 ホール	62人	6時間30分
急変時の対応	レベルⅠ	1) 急変対応に必要な知識とスキルを修得する 2) 急変対応時のコミュニケーション、チームワークの必要性について理解し行動できる 3) 緊急性と優先度の判断が理解できる	1) 急変対応に必要な知識 2) スキルトレーニング 3) コミュニケーションとチームワーク概論 4) シナリオトレーニング	講義 演習	R3/1/16(土) 午前:8:00～12:00 午後:13:00～17:00 R/1/17(日) 午前:8:00～12:00	地域医療・総合診療実 践学・附属講座 谷口純一特任教授 救急・総合診療副部長 入江弘基講師 救急認定看護師 村上 志穂 集中ケア認定看護師 田中貴子 熊本中リハビリテーショ ン看護師認定看護師 小 松祐美 コメディカル心肺蘇生ト レーニング部会・教育 委員会	中央診療棟7階臨 床研修センター カ ンプレックス室・演 習室・シミュレーショ ン室	1/16:46人 1/17:18人	4時間
プリセプター研修:6ヶ月	2020年度プリセプ ター 2020年度新副看護 師長	1) 新人の半年間の成長度合いを評価し、今後の指導内容や方法を検討する 2) プリセプターの体験を通して自己の関わり方や自己成長を再確認する。	1) 新人看護師の特性、6ヶ月までの適応過程 2) 新人の成長度合いの評価と今後の指導のあり方 3) 自己の振り返りと指導者としての成長過程の確認	講義 GW	9/2(水) 8:30～12:00	四天王寺大学看護学 部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目 的ホール	39人	3時間30分

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
看護管理	レベルⅡ-1	1) 看護管理を理解し、部署の運営に参画できる 2) チームメンバーとして主体的に行動できる	1) 看護管理とは 2) コンプライアンスとは	シャド ウイング 講義 GW	9/25(金) 13:30~16:30	今村かおる副看護部長	東病棟12階多目的ホール	37人	3時間
がん看護(実践編)	レベルⅡ-1以上	がんやがんの治療に伴う症状へのケアについて理解し実践に活かすことができる	1) 症状マネジメントとは 2) がんに伴う苦痛症状への看護ケア(がん性疼痛) 3) 治療に伴う有害事象への看護ケア(がん化学療法) 4) がん看護における症状マネジメント(ISAM) 4) 事例検討(グループワーク)	講義 GW	9/11(金) 8:30~16:30	がん看護専門看護師 安達美樹 がん性疼痛看護認定 看護師 坂口まみ がん化学療法看護認定 看護師 森奈緒美	東病棟12階多目的ホール	20人	7時間
事例研究発表会	レベルⅡ-1	1) 事例研究の意義を理解し、発表を通じて研究的視点を習得する 2) 看護理論を活用しながら、実践において個別的な看護展開を発揮する	・事例研究発表 ・事例討議	発表 検討	11/7(土) 8:00~13:00	座長及びファシリテーター 看護師長	管理棟3階第1会議室、中央診療棟7階がんケアレンス室、東病棟12階多目的ホール・セミナー室2	38人	5時間
療養支援研修	レベルⅡ-1以上	1) 医療提供体制の現状を知る 2) 患者・家族が安心して退院後の療養環境に移行するための支援を学ぶ	1) 療養支援について・急性期病院における看護師の役割 2) 診療報酬について 3) 在宅療養継続のための社会資源活用・ケアマネージャーの役割 4) 医療ソーシャルワーカーの役割	講義 GW	12/23(水) 9:30~12:30	地域医療連携センター 谷川徹也看護師長 高橋京香副看護師長 吉田織未MSW	東病棟12階多目的ホール	25人	3時間

ラダーⅡ-1

ラダーⅡ-1

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
ラダ I II 1 プリセプターシップ研修	2021年度 実地指導者(プリセプター)(レベルII-1以上) 新副看護師長 副看護師長の希望者	プリセプターシップについて理解し、実践する	1)プリセプターシップの概念 2)効果的な指導・教育技法 3)新人の特性・面接技法	講義 GW	R3/2/24(水) 8:30~12:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階多目的ホール	44人	4時間
ラダ I II 2・III フィジカルアセスメント指導者研修	レベルII-2以上	1)フィジカルアセスメントに必要なイグザミネーション技術を向上させ、フィジカルアセスメントを確実に行う 2)指導の根拠を学ぶ	・意識・呼吸・循環・腹部の診察技法を学ぶ ・敗血症を学ぶ ・事例を使用して得られたデータから正常と異常、緊急性を判断する ・フィジカルイグザミネーションと事例統合	講義 演習 GW	8/3(月) 8:30~16:45	集中ケア認定看護師 田中真子 脳卒中リハビリテーション看護師 小松和美 救急看護認定看護師 村上志穂	中央診療棟7階カンファレンスルーム・演習室	27人	7時間15分
ラダ I II 2・III 臨地実習指導者研修	2020年度 臨地実習指導者	1)授業としての看護学実習の特徴を理解する 2)臨地実習指導者の役割を理解する	1回目 1)看護教育における臨地実習について 2)実習指導教員との情報交換会 2回目 1)臨地実習指導者の役割を理解し、効果的な実習指導を実施する 2)実習指導教員と協働し、実習指導を展開することができる	講義 GW	1回目:10/9(金) 14:00~16:15 2回目:1/22(水) 14:00~16:00	熊本大学大学院生命科学研究部保健学科 教授 前田ひとみ先生	東病棟12階多目的ホール	1回目:25人 2回目:23人	1回目:2時間15分 2回目:2時間
ラダ I II 2・III 災害看護研修	レベルII-2以上	・災害看護の基礎と特殊性について理解する ・災害発生時の対応(役割)について理解する ・施設見学を通して施設内の災害対応を理解する	・災害医療概論 ・災害看護に必要な基礎的事項 ・災害発生時の対応(院内災害対策マニュアルの確認) ・広域災害での医療支援活動 ・D/AーJ ・施設見学	講義 施設 見学	9/28(月) 13:00~16:40	災害医療教育研究センター長 笠岡俊志 教授 救急看護認定看護師 村上志穂 (エリア別カード説明: 中央材料部 藤本陽子 看護師長)	管理棟3階第一会議室	25人	3時間40分

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
実践におけるクリニカル リーダーシップ研修	レベルⅡ-2以上	1) 中堅看護師として、リーダーシップを発揮するために必要な概念化能力を習得する 2) リーダーとしての対人能力(コミュニケーションスキル)を学び、実践に活かすことができる	1) 業務マネジメント 2) 対人関係マネジメント 3) 問題発見型アプローチ	講義 GW	10/30(金) 13:30~16:30	四天王寺大学看護学部教授 宇佐美しおり先生	東病棟12階 多目的ホール	22人	3時間
リーダー育成研修	レベルⅡ-2以上	リーダーに求められるマネジメントを習得することができる	1) 組織で働くということ 2) 「パートナーシップ・ナッシング・システム」は「パートナーシップ・マネジメント・システム」ということ 3) リーダーに求められる役割と仕事の管理方法 4) 後輩への指導方法 5) ナレッジマネジメント 徹底現場主義 6) グループワーク	講義 GW	11/26(木) 8:30~12:30	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階 多目的ホール	28人	4時間
リーダー育成研修Ⅱ	リーダー育成研修を受講した研修生 28人	1) 各部署でのPNSにおける取り組みについて発表することができる 2) 他部署での取り組みを参考にしながら自部署に活用することができる	研修での学びを活かした実践報告	パワーポイントを用いたプレゼンテーション	R3/2/19(金) 8:30~12:00	パートナーシップ・システム・マネジメント 代表 上山香代子先生	東病棟12階 多目的ホール	26人	3時間30分
家族看護	レベルⅡ-2以上	家族アセスメントに必要な基本的知識を身につけ、患者・家族への看護実践に活かすことができる	・家族看護の基本的な考え方 ・家族理解に必要な視点と基盤となる理論 ・家族看護介入 ・事例を用いた家族看護の展開 ・急性期病院での家族との関わり	講義 GW	12/14(月) 9:00~16:00	高知県立大学基礎看護学教授 瓜生浩子先生	東病棟12階 多目的ホール	25人	6時間

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
次世代看護管理者研修 (2019年度中止分)	新副看護師長	1) 社会情勢や当院の経営状況、看護管理に關して現状を把握したうえで、看護管理に役立てることが出来る 2) 看護管理者として、副看護師長の役割を理解し組織運営ができる	・当院の経営状況・労務管理 ・看護管理 ・人材育成	講義	R2/5/13(水) 9:00~10:30	山本治美看護部長 塘田眞代美看護師長 井上有子副看護師長	東病棟12階セミ ナール室2	4人	1時間30分
基本的日常生活援助技術指導者研修	2021年度実地指導者(プリセプター)で研修未受講者および新副看護師長	基本的日常生活援助技術を根拠に基づいて指導する方法が習得できる	日常生活援助技術の評価シナリオに基づいて演習(臥床患者の排泄・清潔・更衣・体位変換技術)	演習 体験 学習	R3/3/4(木) 8:00~11:45 13:00~16:45 R3/3/5(金) 8:00~11:45 13:00~14:50	副看護師長 教育委員	中央診療棟7階総合臨床研修センター	実地指導者38人 副看護師長31人	5時間35分
安全な注射・与薬プロセス指導者研修	2021年度実地指導者(プリセプター)で研修未受講者および新副看護師長	指導者が安全な注射与薬方法および輸液関連ポンプ使用の指導方法を理解し、根拠に基づいた指導ができる。	注射与薬プロセスと輸液ポンプ・シリンジポンプ使用方法・マニュアルに基づいた指導と評価の演習	講義 演習	R2/3/4・5 (木・金) 8:00~11:45 13:00~16:45	副看護師長 安全対策委員会	部署	副看護師長29名 実地指導者41名	1時間50分
看護倫理部署別事例検討会	毎回指定された研修参加部署の看護職員	事例を通して看護倫理について学び、倫理観を養い実践に活かすことができる	事例検討	GW	9/14(月) 10/12(月) 11/16(月) 12/14(月) R3/1/18(月) 17:15~18:15	院内専門看護師	東病棟12階多目的ホール	9/14:36人 10/12:45人 11/16:37人 12/14:39人 1/18:44人	5時間
指導者研修									
全職員対象									

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
講演会・報告会 活動・研修報告会	看護部職員	他部署及び各委員会での取り組みを参考に自部署に応用できる	・各部署及び委員会の活動報告	報告会	3/1(月)～3/31(水) 共有アオルダグーへ掲載	教育委員会			

2020年度 看護部 院内教育計画表

研修名	対象	目標	内容	方法	日時	講師	場所	研修生人数	研修時間
精神看護	全職員	事例提供ができ、精神看護を深め 問題解決ができる	部署からの事例を検討する	質疑 応答	1回目:9/2(水) 2回目:10/30(金) 3回目:12/2(水) 4回目:1/6(火) 17:30~18:15	四天王寺大学看護学 部・看護実践「開発研 究センター」教授 宇佐美しおゆ先生	東病棟12階多目的 ホール	1 回目: 45人 2 回目: 35人 3 回目: 34人 4 回目: 34人	45分

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央検査部】

研修名	期間	実施回数	参加人数	備考
新規採用者オリエンテーション	コロナ感染対策のため中止	—	2名	
新規採用者新入職者研修	令和2年4月 6月 12月	7	5名 (のべ13名)	
ISO15189 に関する研修	コロナ感染対策のため中止	—	40名予定	
内部監査養成セミナー	コロナ感染対策のため中止	—	40名予定	
患者急変時対応トレーニング	令和3年1月29日	1	6名	
心肺蘇生研修会	7月31日	1	2名	
ISO集合教育	6月29日	1	44名	
時間外緊急検査に関する定期研修(血液)	令和2年8月10日～9月5日	1	24名	
時間外緊急検査に関する定期研修(生化学・免疫)	令和2年9月1日～15日 10月5日	2	24名	
時間外緊急検査に関する定期研修(輸血)	令和2年8月28日～9月5日	1	19名	
時間外緊急検査に関する定期研修(微生物)	11月10日～13日	4	35名	
外部精度管理調査報告会	令和3年2月8日	1	2名	
臨床検査セミナー	コロナ感染対策のため中止	—	50名予定	
COVID-19 Webセミナー	令和2年8月29日	1	1	
危機管理訓練	令和2年12月 16日 23日	1	44名	

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【ME機器センター】				
研修名	期間	実施回数	参加人員	備考
人工呼吸器について	令和2年4月28日(火) ～令和2年5月11日(月)	4回	25名	看護師 25名
保育器について	令和2年6月16日(火) 令和2年6月22日(月)	2回	19名	看護師 19名
人工呼吸器について	令和2年6月29日(月) 令和2年6月30日(火)	2回	20名	看護師 20名
血行動態モニタについて	令和2年12月15日(火) 令和3年3月25日(木)	2回	14名	医師 1名 医療技術職員 13名

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

【中央放射線部】

研修名	期間	実施回数	参加人員	備考
救急医療に関する研修(実技)	令和2年11月30日(月)	1回	技師3名、看護師9名、放射線科医師3名、救急外来医師1名	PET室での急変時シミュレーション訓練
救急医療に関する研修(実技)	令和3年1月29日(金)	1回	技師12名、看護師4名、放射線科医師5名	MRI急変時対応シミュレーション訓練
救急医療に関する研修(実技)	令和2年12月4日(金)	1回	技師7名、看護師14名、放射線科医師8名	造影CT時急変時シミュレーション訓練
救急医療に関する研修(実技)	令和3年3月17日(月)	1回	技師5名、看護師7名、消化器内科医師4名、内視鏡検査技師1名、救急外科医師1名、医療安全管理部副看護師長1名	透視室での急変時シミュレーション訓練
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和2年6月23日	1回	技師7名、看護師1名、医師4名	日本放射線技術学会第76回総会学術大会参加報告 R2.5.23-6.14Web開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和2年10月27日	1回	技師7名、看護師1名、医師7名	熊本放射線治療物理・技術研究会報告会 R2.10.24開催
高精度放射線治療に関する研修(実技)	令和2年12月12日	1回	技師6名	リニアックの精度管理に関する研修会 (於 熊本総合病院)
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年1月26日	1回	技師7名	関西地区RTT統一講習会(基礎コース)参加報告
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年2月2日	1回	技師7名、看護師1名、医師7名	第18回九州システム研究会報告会 R3.1.30Web開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年2月23日	1回	技師7名	関西地区RTT統一講習会(応用コース)参加報告
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年3月2日	1回	技師9名	第14回九州地域放射線治療技術合同研究会(SKRT)報告会 R3.2.27Web開催
高精度放射線治療に関する研修(講義)	令和3年3月9日	1回	技師7名	関西地区RTT統一講習会(安全管理コース)参加報告

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 馬場 秀夫
管理担当者氏名	各診療科長、中央診療施設等の長、医療情報経営企画部長、薬剤部長、看護部長、医療技術部長、栄養管理部長、医療の質・安全管理部長、各課長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	中央手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	中央検査部
		エックス線写真	中央放射線部
		紹介状	各診療科
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課、経理課、医事課、薬剤部
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 増村 隆之	
閲覧担当者氏名	総務課長 西川 洋子	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 3階 応接室	
閲覧の手続の概要 病院事務部（総務課総務担当）へ閲覧の要求を行う。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 熊本大学医学部附属病院は、適切な安全安心で質の高い医療サービスを患者及びその家族に提供するために、医療事故、医薬品管理及び医療機器管理等を踏まえた医療に係る安全管理を目指す。また、「人間はエラーを犯す」ということを前提に、従業者一人一人が医療安全管理に対する高い意識を持ち、関係する各部署及び各委員会等が連携を図り、本院における医療安全管理を推進する。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 1 4 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理に係る基本方針に関すること2. 医療安全管理のための具体的措置に関すること3. 医療安全に係る従業者の教育及び研修に関すること4. 本院において重大な問題その他医療安全管理委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること5. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに従業者への周知に関すること6. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること7. 医療事故発生時の患者や家族への説明及び公表に関すること8. その他医療に係る安全管理に関し必要な事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)： 新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、全職員を対象に実施しており、医療の質・安全管理部からの重要な通達事項(例：高難度新規医療技術、新規承認医薬品等の導入について等)や、インシデントに関連したテーマの講演会(例：血管穿刺時に神経損傷が疑われる際の対応について等)を実施している。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： インシデントが発生した場合、各部署からインシデントレポートにより医療の質・安全管理部へ報告がある。なお、重大なインシデントについては部署リスクマネージャーから即時にゼネラルリスクマネージャーへ連絡があり、ICに同席するなど初期対応から医療の質・安全管理部が介入し対応している。 インシデントレポートを基に要因分析と再発防止策の検討を医療の質・安全管理部と医療安全管理委員会で実施している。検討した再発防止策は、リスクマネージャー連絡会議において警鐘事例とともに各部署のリスクマネージャーに通告し、その後リスクマネージャーから全職員に周知される。 また、部署リスクマネージャーによる自部署チェック、他部署間の相互チェックや、医療の質・安全管理部運営委員会委員による院内巡視、医療安全管理者によるラウンドなど、定期的な巡回や監査も実施している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 感染対策委員会、その他の医療機関内の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 抗微生物薬適正使用に関する基本方針 6. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8. その他の医療機関内における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 4 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染防止対策に関する事項の審議 2. 院内感染防止対策研修会の企画・審議 3. 感染予防に関する事業の企画・実施 4. MRSA等の薬剤耐性菌の分離状況についての報告 5. 抗MRSA薬適正使用報告 6. 感染制御チーム（ICT）からの報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (医療系)『新型コロナウイルス感染症について～基本的な知識と院内感染対策／当院の経口抗菌薬使用状況と適正使用』 (事務系)『VS 新型コロナウイルス感染症』 2. (医療系)『熊本大学病院での新型コロナウイルス感染症対応について／新型コロナウイルス検査について』 (事務系)『全集中！新型コロナウイルス感染対策』 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： (有 無)</p> <p>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等の多職種からなる ICT を組織し、病原感染対策マニュアルの制定、院内感染発生時の対応、院内ラウンド、抗菌薬適正使用の推進、病院感染防止の教育・啓発、職業感染防止対策などの活動を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【院内研修】</p> <ol style="list-style-type: none">令和 2 年 4 月 1 日・「2020 年度新規採用職員研修」 「薬剤部の業務内容と院内における医薬品の取り扱いについて」(資料配布、必須項目は WEB 研修) (講師：副薬剤部長、対象：新採用職員)令和 2 年 6 月 23 日～7 月 22 日・「令和 2 年度第 1 回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・227 名 (講師：薬剤部長・副薬剤部長(薬剤師 GRM)・薬剤師、対象：新採用医師)令和 2 年 5 月 26 日・「2020 年度新採用看護師 IV 基礎研修」 「看護師に必要な薬理作用の基礎知識」・59 名 (講師：薬剤部長、対象：新採用看護師)令和 2 年 7 月 13・14・15・17・20 日・「看護師特定行為研修・臨床薬理学演習」・7 名 (講師：薬剤部長、対象：看護師)令和 2 年 7 月 20 日～8 月 7 日・「2020 年度前期院内感染対策研修会及び医療安全のための講演会(医療系)」 「B 型肝炎ウイルス再活性化対策」「骨吸収抑制薬による顎骨壊死」「院の経口抗菌薬使用状況と適正使用」・1740 名 (講師：薬剤師、対象：全職員)令和 2 年 10 月 29 日～11 月 26 日・「令和 2 年度第 2 回新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会」・37 名 (講師：薬剤部長・副薬剤部長(薬剤師 GRM)・薬剤師、対象：新採用医師) <p>【病棟別等の対象限定での研修】</p> <ol style="list-style-type: none">令和 2 年 4 月 23 日・「汎用薬剤の注意喚起ポイントについて」・5 名(講師：薬剤師、対象：西病棟 6 階看護師)令和 2 年 6 月 2 日・「悪性リンパ腫 化学療法について」・20 名(講師：薬剤師、対象：西病棟 5 階看護師)令和 2 年 10 月 26 日・令和 2 年度熊本県 HIV 感染者・エイズ患者の在宅医療・看護の環境整備事業実地研修事業「HIV の治療薬について」・3 名(講師：薬剤師、対象：看護師)令和 2 年 11 月 5 日・「ロナセンテープ 20mg の勉強会」・13 名(講師：薬剤師、対象：西病棟 5 階看護師)令和 3 年 1 月 27 日・「調剤補助業務に従事する技術補佐員のための研修会」・4 名(講師：副薬剤部長、対象：調剤補助業務に従事する技術補佐員)令和 3 年 1 月 28 日・「ドキシル療法について」・10 名(講師：薬剤師、対象：東病棟 7 階看護師)令和 3 年 3 月 3 日・「化学療法レジメン(小児科でよく使われる抗がん剤)について」・7 名 (講師：薬剤師、対象：西病棟 8 階看護師)令和 3 年 3 月 26 日・「救急カートの薬剤について」・10 名(講師：薬剤師、対象：東病棟 7 階看護師)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全管理責任者に薬剤部長を任命(平成 19 年 4 月)し、院内に医薬品安全管理専門委員会を設置した。『医薬品の安全使用のための業務手順書』(以下、業務手順書)は平成 19 年 7 月に作成した。令和 2 年 9 月に、医薬品安全管理専門委員会を開催し、業務手順書を改訂した(第 15 版)。今回の改訂内容については以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none">医薬品管理室業務手順書版改訂(第 7 版へ)「麻薬」を「医療用麻薬」に変更注射剤調剤室業務手順書版改訂(第 15 版へ)中央手術部における筋弛緩薬の取り扱い手順書版改訂(第 4 版へ)薬剤部以外(病棟等)における麻薬の保管管理について、「金庫」を「麻薬金庫」へ変更薬剤部以外(病棟等)における向精神薬(第 1 種・第 2 種)の保管管理について、「施錠保管する」ことを追記	

- (7) 「熊本大学医学部附属病院医薬品集 (2018)」を「熊本大学病院採用医薬品情報ハンドブック2020」へ変更
- (8) 注射剤の個人セット支給を当日臨時処方も全病棟対象に実施したことに伴い、「翌日以降の」の文言を削除
- (9) 「毎月開催の診療科等連絡調整委員会にて厚生労働省発信の医薬品・医療機器等安全性情報の概要を口頭説明する」の文言を削除
- (10) 「医薬品の適応外使用評価部会の開催について」を追記
- (11) 保健薬局との情報共有について「薬剤部を介し」を「薬剤部医薬品情報室を介し」に変更
- (12) 研究目的等で適応外使用する際の倫理委員会について、目的別に複数の委員会が存在するため詳細は熊本大学大学院生命科学研究部のホームページ、生命倫理に関する倫理委員会のサイトを参照することを追記

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) : メンケス病に対するヒスチジン銅注射液

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
- 1) 医薬品安全管理責任者は、院内各部署における常備医薬品に関する管理状況、内用剤・外用剤・注射剤の調剤時における疑義照会内容、外来化学療法室における疑義照会事例および病棟薬剤業務に関連した疑義照会事例等について、情報の収集・確認に努め、医療安全管理委員会において、その状況等を報告している。院内で発生した薬剤業務関連のインシデント事例について薬剤師への情報共有・周知を図り、再発防止のための注意喚起に努めている。
- 2) 院内各端末からは、病院情報管理システムを用いて、最新(毎月1回更新)の添付文書情報を閲覧可能としており、また、新規採用医薬品については、毎月発行の院内情報誌「熊大病院・医薬品情報」にて概要と注意事項等の情報を発信すると共に、病院情報システム内の院内専用電子掲示板「医薬品情報」にも掲示している。
- 3) 調剤(注射剤調剤を含む)に際しては、質疑応答内容を記録し、処方鑑査、疑義照会および医薬品安全使用の目的に活用している。がん化学療法においては、処方ミス回避し安全性を確保するため、注射用抗がん剤に対する処方は専用のレジメンオーダーリングシステムのみでの運用に限定している。注射用抗がん剤の無菌調製は休日も含め全て薬剤部で担当している。
- 4) 治療域の狭い薬物や個体差の大きい薬物等については、薬物血中濃度モニタリング(TDM)による投与設計・管理を推奨し、特に抗MRSA薬については、毎月度開催される感染対策委員会においてTDM実施状況を報告し、TDMに基づいた適正投与を行うように医師に対し周知徹底を図っている。
- 5) 未承認医薬品については、院内では「本院で使用したことのない医薬品であって、“医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律”における承認又は認証を受けていないもの」と定義した上で、薬剤部で調剤(分包依頼、剤形変更などの特殊製剤依頼等も含む)する際には、未承認医薬品の使用が倫理委員会(人を対象とする医学系研究臨床研究部門倫理委員会、臨床倫理委員会)の承認を得ていることを書面にて確認している。医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師(担当薬剤師)は未承認医薬品の使用状況及び規程遵守状況等を月1回定期的に確認し、医薬品安全管理責任者へ報告している。報告された適応外使用をとりまとめ、月に一度、薬剤部長、副薬剤部長、医薬品情報室長、薬剤師 GRM、医療安全支援室長等をメンバーとする「医薬品の適応外使用評価部会」を薬剤部内で開催している。リスク分類は、日本病院薬剤師会作成の「ハイリスク薬に関する業務ガイドライン Ver.2.2」を参考に適応外使用によるリスクとベネフィットを評価検討し、診療科に対して適応外使用の理由書提出または倫理委員会への申請依頼を行っている。
- 6) 令和2(2020)年度の新規取組み事項
 - (1) 2020年4月9日に、院内医薬品情報誌にて「直接経口抗凝固薬(DOAC)の特徴と使い分け」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
 - (2) 2020年3月、米国においてバンコマイシンのTDMの指標がトラフ値から時間-血中濃度曲線下面積(AUC)に変更されたことに伴い、当院では2020年4月よりAUCを指標としたTDMを啓発した。
 - (3) COVID-19感染拡大状況下で集合形式での開催が困難となったため、2020年5月14日より、従来の新薬説明会をオンライン開催で実施できる環境とした。また、開催時間を12時・13時・14時の1日3回に分けて開催することで、時短勤務等で参加が困難であった職員の参加も可能となる体制を構築した。

- (4) 2020年5月18日に、従来の院内医薬品集の代替として「採用医薬品情報ハンドブック2020」を作成し、院内関係各所に配布した。
- (5) アプレピタントカプセルセットの用法は「頓用」でデフォルト設定されていたが、看護師の与薬実施画面に反映されず、与薬漏れのインシデントが多数報告されていたため、2020年5月よりデフォルト設定を「1日分」へ変更し、与薬漏れのインシデント防止を図っている。
- (6) 2020年6月4日に、院内医薬品情報誌にて「添付文書にフィルタ使用要否に関する記載のある医薬品一覧表」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (7) 処方・注射オーダ時の上限量超過処方に関するインシデント事例を鑑み、2020年7月15日に処方・注射オーダ時の投与制限医薬品（投与量上限突破オーダ）の設定を行い、一部医薬品についてはオーダ制限量を超過した場合オーダ不可となる仕様に変更し、安全体制の強化を図った。
- (8) ランマークによる顎骨壊死の副作用報告事例を受け、副作用に関する説明と記録の標準化のため2020年8月より「骨吸収抑制薬の説明同意書」を作成し、当該薬剤処方時には同意取得と歯科受診を促すためのポップアップメッセージを表示している。
- (9) 2020年8月、抗菌薬適正使用マニュアルを作成し、院内に配布した。
- (10) 小児に対してフェキソフェナジンが成人量で処方されて服用したインシデント事例を受け、2020年9月より小児でチェックがかかるように用量設定を変更（1回30mg、1日60mg）した。
- (11) 水剤に賦形されていることがわからなかったことによる過少投与のインシデントを受け、2020年9月より内用水剤の1回量が整数とならない場合、単シロップで賦形することを処方オーダ時に判るようにメッセージを表示することにした。これにより処方の1回量と水剤ラベルの1回量が違うことによるインシデントの発生を防止できている。
- (12) 常備薬は医師の指示のもと使用されているが、常備薬補充の処方時にアレルギー登録されていることが判明したインシデントも報告されており、常備薬使用時は体系的なチェックがかからないことが問題となっている。常備薬を継続指示に紐づけて処方登録しておくことで、併用禁忌やアレルギー等を体系的にチェックし、より安全に常備薬を使用できるように体系的な改修を行い2020年1月より一部病棟でテスト運用を開始、2020年10月より全病棟での運用を開始した。
- (13) 2020年10月8日に、院内医薬品情報誌にて「不眠症治療薬一覧表」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (14) 抗がん剤によるシーツ汚染等のインシデント事例を受け、教育のため2020年10月の新採用医師を対象とした医薬品安全使用等にかかる研修会にて、抗がん剤曝露防止対策の内容を新規で追加した。
- (15) ジーラスタ過剰投与（3日連続投与）のインシデントを受け、2020年11月より連日処方不可となるようにアラート設定を変更した。
- (16) インスリンバイアル製剤の取り扱いに関する医療安全情報が令和2年11月に発信されたことを受けて、薬剤部以外の全部署（病棟等）に配置されているインスリンバイアル製剤の保管状況を確認し、保管場所に「インスリン専用注射器を使用する事」という注意喚起のシールを貼付した。
- (17) 2020年11月12日に、院内医薬品情報誌にて「抗菌薬最小希釈・溶解液量について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (18) 電子カルテの発育曲線より入力された身長・体重などの患者基本情報が「患者プロフィール情報」に反映されておらず、処方オーダ・鑑査時の用量超過チェック機能が正常に稼働していない事象が確認されたため、2020年12月10日に改修を行い、発育曲線より入力された身長・体重などの患者基本情報が「患者プロフィール情報」に反映されるよう仕様改修を行った。
- (19) 2020年12月10日に、院内医薬品情報誌にて「経口糖尿病用薬一覧」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (20) 2021年1月、新型コロナウイルス感染症治療薬であるベクルリー点滴静注用に関し、risk management plan (RMP) に基づいて適正使用に関するリーフレットを作成し、病棟各所に貼付した。
- (21) 2021年1月より、新型コロナウイルス感染症（重症）の診療開始に伴い、新型コロナウイルス感染症薬物治療マニュアルを作成し、ICU、ICUを中心に配布した。
- (22) 2021年1月18日より、内服一包化処方薬の安定性確保の為に、薬包紙に処方開始日の印字を開始した。
- (23) 2021年2月10日に、院内医薬品情報誌にて「吸入薬一覧について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (24) 2021年3月1日より、外用剤プロペトの衛生面の向上、調剤時間短縮の為に100gチューブ製剤を採用し、100g単位の処方時の使用を開始した。
- (25) 2021年3月11日に、院内医薬品情報誌にて「点眼薬一覧表」、「インスリン製剤ならびにGLP-1受容体作動薬について」を作成し、医薬品適正使用に関する情報共有を行った。
- (26) 2021年3月17日に、院外処方箋レイアウト変更+表示QRコードのバージョンアップ対応を行い、記載内容の充実化を図った。
- (27) 添付文書に小児用量のみ記載のある医薬品について、成人での使用の際の用量チェックを行うため、2021年3月29日に、「小児用量設定薬の成人量上限設定」を行い、安全管理体制の強化を図った。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○・無																																																																				
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 17回																																																																				
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="0"> <tr> <td>令和2年</td> <td>4月</td> <td>閉鎖式保育器の基礎と使用方法</td> <td>151名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5月</td> <td>除細動器の原理と日常点検</td> <td>250名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月</td> <td>補助循環装置 (IABP, PCPS)</td> <td>107名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7月</td> <td>人工呼吸器</td> <td>245名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8月</td> <td>人工心肺の基礎</td> <td>134名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月</td> <td>血液浄化装置</td> <td>77名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月</td> <td>閉鎖式保育器の基礎と使用方法</td> <td>39名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月</td> <td>除細動器</td> <td>53名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12月</td> <td>補助循環装置とその管理</td> <td>54名</td> </tr> <tr> <td>令和3年</td> <td>1月</td> <td>人工呼吸器</td> <td>65名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2月</td> <td>人工心肺装置</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3月</td> <td>血液浄化装置</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3月</td> <td>放射線治療機器リニアックの安全な使用方法</td> <td>7名</td> </tr> </table> <p>医療機器導入時研修 20回 合計参加者数：270名</p>		令和2年	4月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	151名		5月	除細動器の原理と日常点検	250名		6月	補助循環装置 (IABP, PCPS)	107名		6月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	12名		7月	人工呼吸器	245名		8月	人工心肺の基礎	134名		9月	血液浄化装置	77名		10月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	39名		10月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名		11月	除細動器	53名		12月	補助循環装置とその管理	54名	令和3年	1月	人工呼吸器	65名		1月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名		2月	人工心肺装置	7名		2月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	18名		3月	血液浄化装置	20名		3月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名
令和2年	4月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	151名																																																																		
	5月	除細動器の原理と日常点検	250名																																																																		
	6月	補助循環装置 (IABP, PCPS)	107名																																																																		
	6月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	12名																																																																		
	7月	人工呼吸器	245名																																																																		
	8月	人工心肺の基礎	134名																																																																		
	9月	血液浄化装置	77名																																																																		
	10月	閉鎖式保育器の基礎と使用方法	39名																																																																		
	10月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名																																																																		
	11月	除細動器	53名																																																																		
	12月	補助循環装置とその管理	54名																																																																		
令和3年	1月	人工呼吸器	65名																																																																		
	1月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名																																																																		
	2月	人工心肺装置	7名																																																																		
	2月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	18名																																																																		
	3月	血液浄化装置	20名																																																																		
	3月	放射線治療機器リニアックの安全な使用方法	7名																																																																		
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																																																																					
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (○・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>医療機器保守・点検業務手順書に則り、人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、直線加速器、RALS、輸液ポンプ、シリンジポンプ、小型シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、低圧持続吸引器、空気除菌・脱臭装置、AED、麻酔器は保守点検に関する計画を策定し、ME機器センター技士ならびに製造販売業者が保守点検を実施している。保守点検後は、その状況を月報として医療機器安全管理責任者に報告し、最終的には病院長が委員長となっている医療安全管理委員会に提出されている。上記の医療機器は、始業点検・終業点検、使用中点検についても医療機器保守・点検業務手順書に則り実施している。なお、医療機器不具合時の対応法について院内ネットワークで閲覧できる状態であり、不具合機器は、医療機器修理依頼書とともにME機器センターに持参してもらっている。</p>																																																																					
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																																																					
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療安全情報で医療機器の不具合等に関する事例が報告された際、医療の質・安全管理部と連携を図り対象となる医療機器を扱う部署やスタッフへの周知を行う。また、医療機器の安全使用のための研修会の中でも医療事故に関する説明を行うこともある。WEBによる研修を行うことによって、より多くのスタッフが受講できるようになった。医療機器の添付文書はME機器センターで管理するとともに、院内ネットワーク上で何時でも閲覧できる。ME機器センター職員は、WEBによるセミナーや研修会を受講することにより、より充実した医療機器の保守管理・操作の業務に従事している。</p>																																																																					

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 13 号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有 無								
<p>・責任者の資格（医師・<u>歯科医師</u>） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>管理者を議長として毎週開催される「医療安全対策に関するカンファレンス」及び毎月開催される「医療安全管理委員会」のメンバーとして医療安全管理責任者をはじめ、医療安全管理部門の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者が出席しており、各所掌事項の報告や検討事項について情報を共有している。特に組織横断的に病院全体での検討が必要な事項等においては、医療安全管理責任者と相談した上で、医療安全管理委員会に諮り審議している。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (11名) ・無								
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況									
<p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○医薬品の安全使用のために必要となる医薬品の使用状況の確認及び関連情報の整理 医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師（担当薬剤師）は、病院情報システムから得られたデータ、薬剤部疑義照会システムに記録されたデータ並びに薬剤部病棟業務カンファレンスで報告された事例等を基に、院内における医薬品の使用状況を月 1 回定期的に確認している。その結果を踏まえて、医薬品安全管理責任者は、重要な添付文書情報、緊急安全性情報、安全性速報、適応外使用・禁忌医薬品使用・未承認医薬品使用（「適応外使用」、「禁忌医薬品使用」及び「未承認医薬品等」の医薬品安全管理に係る情報）を確認・整理している。</p> <p>○医薬品の適正使用に係る情報の院内周知及び周知状況の確認 医薬品安全管理責任者は、担当薬剤師より報告された情報を医療安全管理委員会へ報告し、本委員会の判断の下に、必要に応じて医療安全管理部より院内全体に対し医薬品の適正使用のための注意喚起情報を周知している。“リスクマネージャー連絡会議の通達内容” および日本医療機能評価機構から発信される“医療事故情報収集等事業・医療安全情報”については、院内各部署に書面で配付し、署名にて周知状況を確認している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報収集と確認 担当薬剤師による適応外使用及び禁忌医薬品使用に関する情報を月 1 回定期的に収集した内容について、医薬品安全管理責任者が確認している。また、報告された適応外使用をとりまとめ、月に一度、薬剤部長（医薬品安全管理責任者）、副薬剤部長、医薬品情報室長、薬剤師 GRM、医療安全支援室長等をメンバーとする「医薬品の適応外使用評価部会」を薬剤部内で開催している。リスク分類は、日本病院薬剤師会作成の「ハイリスク薬に関する業務ガイドライン Ver.2.2」を参考に適応外使用によるリスクとベネフィットを評価検討し、診療科に対して適応外使用の理由書提出または倫理委員会への申請依頼を行っている。</p> <p>○未承認医薬品の使用状況の確認 担当薬剤師による未承認医薬品の使用状況等を月 1 回定期的に確認した内容について、医薬品安全管理責任者が確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table border="0" data-bbox="175 1769 1404 1982"><tr><td>(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長)</td><td>(所属：薬剤部、職種 医療安全支援室長)</td></tr><tr><td>(所属：薬剤部、職種 調剤室長)</td><td>(所属：薬剤部、職種 麻薬室長)</td></tr><tr><td>(所属：薬剤部、職種 注射剤調剤室長)</td><td>(所属：薬剤部、職種 製剤室長)</td></tr><tr><td>(所属：薬剤部、職種 病棟薬剤業務支援室長)</td><td>(所属：薬剤部、職種 医薬品情報室長)</td></tr></table>		(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長)	(所属：薬剤部、職種 医療安全支援室長)	(所属：薬剤部、職種 調剤室長)	(所属：薬剤部、職種 麻薬室長)	(所属：薬剤部、職種 注射剤調剤室長)	(所属：薬剤部、職種 製剤室長)	(所属：薬剤部、職種 病棟薬剤業務支援室長)	(所属：薬剤部、職種 医薬品情報室長)
(所属：薬剤部、職種 副薬剤部長)	(所属：薬剤部、職種 医療安全支援室長)								
(所属：薬剤部、職種 調剤室長)	(所属：薬剤部、職種 麻薬室長)								
(所属：薬剤部、職種 注射剤調剤室長)	(所属：薬剤部、職種 製剤室長)								
(所属：薬剤部、職種 病棟薬剤業務支援室長)	(所属：薬剤部、職種 医薬品情報室長)								

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ：監査担当医師と診療情報管理士が毎月実施する診療録記載監査の中から、患者への説明記録及び同意取得に関する監査の結果を院内諸会議にて報告している。またリスクマネージャー会議においても同結果をもとに、部署リスクマネージャー等を通じて規定の遵守について指導を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・毎月実施する診療録の監査実施と集計結果報告 実施者：監査担当医師 219 名、診療情報管理士 10 名 量的点検：全入院診療録 医学管理料等及び質的点検：入院診療録 約 490 例／月平均、外来診療録 330 例／月・監査の集計結果について、院内諸会議及び診療科（監査担当医師）へ報告 監査結果の不備について、主治医宛に症例別報告書にて通知、または直接医師へ連絡・入職時のオリエンテーションにて「診療録等記載マニュアル（院内で作成）」をもとに講義	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・所属職員：専従（5）名、専任（2）名、兼任（18）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（4）名(注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること・活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 医療の安全性の確保及び向上に係る方策の立案、推進及び検証に関すること。(2) 医療安全管理に係る教育・研修の実施に関すること。(3) 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び従業者の医療安全に対する意識向上の状況確認に関すること。(4) 事故その他医療の質・安全管理部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事	

象が発生した場合における診療録その他診療に関する記録の確認、当該事象に関わる患者又はその家族への説明、当該事象発生の原因究明その他の対応状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導に関すること。

(5) 高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること。

(6) 未承認新規医薬品等の提供の適否等に関すること。

(7) 医療安全管理に係る連絡調整業務に関すること。

(8) 医療安全管理マニュアルに関すること。

(9) 熊本大学病院医療安全管理委員会に係る事務に関すること。

(10) 職員のメンタルヘルス支援に関すること。

(11) 医療事故及び医療紛争の当事者及びその家族の心理的支援に関すること。

(12) 医療の質・安全管理部長が必要と判断する患者及びその家族への心理的支援に関すること(前号に規定する業務を除く。)

(13) その他医療の質及び医療安全管理に関し必要な事項

・医療安全に資する診療内容についてのモニタリングの具体例:

・手術室、内視鏡室、造影室、透視室のタイムアウト巡回、病棟の人工呼吸器巡回を GRM で実施した。12月に産科、救急外来、中央検査部と緊急時輸血シミュレーションを実施した。結果はすべて部署にフィードバックした。

・画像診断所見と病理診断所見確認システムを導入しており、各診療科に結果をフィードバックした。また、令和元年度から、画像診断所見における、依頼内容以外の重要所見について診療の進捗を確認し主治医へフィードバックしている。重大なインシデントは発生していない。

・従事者の医療安全の認識についてのモニタリングの具体例:

「医療安全のための講演会」の受講状況について随時把握し、未受講者についてはeラーニングを受講するよう指導している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数(10件)、及び許可件数(10件)

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無(有 無)

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無(有 無)

・活動の主な内容：

- (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、高難度新規医療技術の提供の適否等について意見を求めること。
- (2) 前号の意見の求めに応じ、高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を高難度新規医療技術提供審査結果通知書により通知すること。
- (3) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供に関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容の確認すること。
- (4) 高難度新規医療技術の適正な手続に基づく提供について、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
- (5) 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の従業者の遵守状況の確認をしたときに、その内容について病院長に報告すること。
- (6) 高難度新規医療技術評価委員会に係る事務を行うこと。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (5 件) 、 及び許可件数 (2 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)

・活動の主な内容：

- (1) 診療科等の長から申請を受理した場合において、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対して、未承認新規医薬品等の使用の適否等について意見を求めること。
- (2) 前号の意見の求めに応じ、未承認新規医薬品等評価委員会が述べた意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対し、その結果を未承認新規医薬品等使用審査結果通知書により通知すること。
- (3) 未承認新規医薬品等の適正な手続に基づく使用に関し、定期的に、及び使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
- (4) 未承認新規医薬品等の適正な手続きに基づく使用について、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
- (5) 未承認新規医薬品等の適否等について決定したとき、及び前号の従業者の遵守状況を確認したとき

に、その内容について病院長に報告すること。

(6) 未承認新規医薬品等評価委員会に係る事務を行うこと。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況： 年 2 3 2 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況： 年 1 8 9 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 報告の実施状況(発生内容や頻度、その後の患者の転帰等)の確認と、確認結果の管理者への報告。
 2. 報告等の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための従業者への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：鹿児島大学病院) ・無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：長崎大学病院) ・無)
- ・ 技術的助言の実施状況

呼吸機能検査場所の院内案内に関して、分かりやすいよう床面だけでなく、壁面への案内表示を追加した。

また、病院監査委員会のホームページについて、検索はできるがサーバーエラーとなり閲覧できないページが存在していたため、当該ページを削除し、通常のページのみ閲覧できるようにした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況

患者様やご家族からの医療の安全管理に係る相談等に対応する窓口として「患者相談室・医療安全相談室」を設置しており、直接の相談や電話による相談に対して適切に応じる体制を整えている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者、中途採用者のオリエンテーションとは別に、医療に係る安全管理のための職員研修を全職員を対象に年2回実施しており、医療安全管理部からの重要な通達事項(例:高難度新規医療技術、新規未承認医薬品等の導入について)や、インシデントに関連したテーマの講演会(例:血管穿刺時に神経損傷が疑われる際の対応について)を実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

※いずれも、公益財団法人日本医療機能評価機構主催

管理者：令和2年度第4回特定機能病院管理者研修 [継続] (R02.12.10) オンライン受講済

医療安全管理責任者：令和2年度第8回特定機能病院管理者研修 [継続] (R03.2.14) オンライン受講済

医薬品安全管理責任者：

令和2年度第7回特定機能病院管理者研修 [継続] (R03.2.4) オンライン受講済

医療機器安全管理責任者：

令和2年度第5回特定機能病院管理者研修 [継続] (R02.12.16) オンライン受講済

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構による病院機能評価一般病院3 (3rdG: Ver. 2.0) の更新審査を令和元年8月に受審し、令和2年3月6日付で認定。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

日本医療機能評価機構のホームページにて審査結果報告書を公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

(様式第 6-2)

審査の結果、課題として取り組むことを推奨された事項について、院内会議体等で共有するとともに定期的に各事項の進捗管理を行っている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
<p>・ 基準の主な内容</p> <p>医師免許を有し、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）の規定に則った者であるとともに、人格が高潔で学識に優れ、次世代の医療に貢献すべく先端医療研究の推進、優れた医療人の育成および病院の管理運営に関し識見を有し、以下の点に合致する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理業務に対する知見・経験 2. 病院の管理運営・経営に必要な能力 3. 熊本大学病院に求められるミッションの遂行 <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法 国立大学法人熊本大学病院長候補者選考規則を熊本大学ホームページで公表。</p>	

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> ・無
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法 熊本大学ホームページで公表。</p>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
宇佐川 毅	熊本大学	○	学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> ・無
有松 正洋	熊本大学		学長が指名する理事	<input checked="" type="radio"/> ・無
富澤 一仁	熊本大学 生命科学研究部		医学系研究部会議から選出された者	<input checked="" type="radio"/> ・無
谷原 秀信	熊本大学病院		病院運営審議会から選出された者	<input checked="" type="radio"/> ・無
福田 稠	熊本県医師会		熊本県医師会会長として、熊本県の医療・保健・福祉全般に豊富な	有・ <input checked="" type="radio"/>

(様式第 6-3)

			知見を有する	
水田 博志	熊本市民病院		熊本市病院事業管理者として、熊本市の医療・保健・福祉全般に豊富な知識を有する	有・無
渡辺 克淑	熊本県健康福祉部		熊本県の医療に係る担当責任者として、熊本県の医療・保健・福祉全般に豊富な知見を有する	有・無
山本 治美	熊本大学病院		学長が必要と認める者	有・無

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営・経営等に関する重要事項及び病院長候補適任者の選考に関する事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 院内コミュニケーションシステム（ガルーン）により、資料・議事録を掲載し周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（(有)・無） ・公表の方法 熊本大学規則集システムやガルーンに掲載し公表 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・(無)） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
馬場 秀夫	○	医師	病院長、総合臨床研究部長
坂上 拓郎		医師	呼吸器内科長
田中 靖人		医師	副病院長、消化器内科長
松岡 雅雄		医師	副病院長、血液内科長、膠原病内科長、中央検査部長、輸血・細胞治療部長、感染免疫診療部長
向山 政志		医師	副病院長、腎臓内科長、腎・血液浄化療法センター長
荒木 栄一		医師	糖尿病・代謝・内分泌内科長、栄養管理部長
辻田 賢一		医師	副病院長、循環器内科長
植田 光晴		医師	脳神経内科長
松井 邦彦		医師	総合診療科長
福井 寿啓		医師	心臓血管外科長
鈴木 実		医師	呼吸器外科長

(様式第 6-3)

山下 洋市		医師	消化器外科長
山本 豊		医師	乳腺・内分泌外科長
日比 泰造		医師	小児外科長、移植外科長
神波 大己		医師	泌尿器科長、中央手術部長
近藤 英治		医師	産科長、婦人科長
中村 公俊		医師	小児科長
宮本 健史		医師	副病院長、整形外科長、リハビリテーション部長
福島 聡		医師	皮膚科長、中央材料部長
増口 信一		医師	形成・再建科長
井上 俊洋		医師	眼科長
折田 頼尚		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
中山 秀樹		歯科医師	歯科口腔外科長
平井 俊範		医師	画像診断・治療科長、中央放射線部長
大屋 夏生		医師	放射線治療科長
竹林 実		医師	神経精神科長
武笠 晃丈		医師	脳神経外科長
山本 達郎		医師	麻酔科長、集中治療部長
三上 芳喜		医師	病理部長
入江 弘基		医師	救急部長
宇宿 功市郎		医師	医療情報経営企画部長
齋藤 秀之		薬剤師	薬剤部長
笠岡 俊志		医師	災害医療教育研究センター長
野坂 生郷		医師	外来化学療法センター長
吉武 淳		医師	緩和ケアセンター長
山本 治美		看護師	副病院長、看護部長
横山 俊朗		臨床検査技師	医療技術部長
近本 亮		医師	副病院長、医療の質・安全管理部長
中田 浩智		医師	感染制御部長

(様式第 6-3)

増村 隆之		事務職員	副病院長、病院事務部長
松井 啓隆		医師	がんゲノムセンター長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
熊本大学規則集システムによる公表

- ・ 規程の主な内容

「熊本大学病院規則」、「熊本大学学則」

病院規則において、「特定機能病院の管理者として管理運営に関する権限に基づき、業務を総括し、所属職員を監督する。」と規定されている。また、病院長は、戦略、病院経営担当の副学長として任命されており、熊本大学学則の規定に基づき、学長を助け、命を受けて校務(病院経営等)をつかさどっており、開設者である学長から当該校務に係る権限を与えられている。

- ・ 管理者をサポートする体制(副院長、院長補佐、企画スタッフ等)及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長：病院長の職務の一部を補佐
 - ・ 病院長特別補佐：病院長が命ずる病院における特別な事項を担当し、病院長を補佐

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院長、副病院長及び病院長特別補佐の病院中枢の執行部が、病院運営の課題や将来の展望・方向性等を意見交換し共通理解を図ることを趣旨とした「病院運営カンファレンス」において、構成員は各担当分野について問題意識をもって同会議に臨んでいる。
また、新型コロナウイルス感染症に係る対応において、情報把握を行うとともに関連部署と連帯を強化して総合的かつ有効な対策を迅速に講ずるため、本部長(病院長)、副本部長(診療活動担当副病院長)等から構成される「新型コロナウイルス対策本部」を設置し、本院における対応方針及び対策の意思決定や熊本県等関連機関との連携調整等を行っている。
本対応等とおして、対策本部構成員の危機管理マネジメント力のスキルアップが図られるとともに、対策本部の決定事項等発信体制の整備、強化により、病院一体となった危機管理意識の向上が図られている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況		有・無			
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>本院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じ確認を実施するとともに、必要に応じ医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を述べる。</p> <p>また、監査報告書を学長に提出するとともに、監査結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>熊本大学ホームページによる公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
吉村 麻里子	佐賀大学医学部附属病院 医療安全管理室	○	医療安全管理に関する見識を有する者	有・無	1
藤木 美才	ふじき法律事務所		法律に関する見識を有する者	有・無	1
馬見塚 まゆみ	がんサロンネットワーク		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
 - ・熊本大学監事監査において、法令等に従い、業務の適正かつ効果的、効率的、経済的な運営を図ること及び会計経理の適正を確保するための監査を実施。
 - ・熊本大学内部監査において、業務の有効性及び効率性並びに業務処理の適法性について検証するとともに、リスク・マネジメント、内部統制及びガバナンス・プロセスの有効性について評価し、その結果に基づき是正又は改善のための助言、提言を行うための監査を実施。

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
熊本大学ホームページによる公表

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none">・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 外部有識者を含めた 7 名の委員で構成する熊本大学病院アドバイザー会議を設置しており、令和 3 年 1 月 21 日に令和 2 年度の会議を開催した。 同会議において、新型コロナウイルス感染症への対応状況、病院経営の課題と戦略等について意見交換が行われた。・ 会議体の実施状況 (年 1 回)・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 (有・無) (年 1 回)・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (有・無)・ 公表の方法 熊本大学ホームページによる			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：熊本大学病院アドバイザー会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
宇佐川 毅	理事・副学長	○	有・無
甲斐 隆博	株式会社肥後銀行 代表取締役会長 熊本経済同友会代表幹事		有・無
田嶋 徹	熊本県副知事		有・無
村田 信一	熊本大学同窓会連合会会長 熊本大学武夫原会会長		有・無
古荘 文子	古荘土地有限会社代表取締役 有限会社エステート・エフ代表取締役		有・無
水田 博志	熊本市市民病院 熊本市病院事業管理者		有・無
福田 稠	熊本県医師会会長 医療法人社団 愛育会 福田病院 理事長		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 メール、院内コミュニケーションシステム (ガルーン掲示板) への掲示

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>本院ホームページ、熊大病院ニュース（年2～3回発行）、熊大病院概要（毎年度発行）等を活用し、本院の役割に関する情報を発信している。</p> <p>特に本年は、新型コロナウイルス感染症に関する本院の地域における取組について、令和3年10月発行予定の熊大病院ニュースで特集を組むほか、地元メディアからのコロナ関連の取材依頼に積極的に応じ、熊本県で唯一の特定機能病院として、その果たすべき役割について地域に広く情報発信している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>当該科からのコンサルテーションシートに基づき、他科の診療科が必要に応じて診療・治療・検査等を連携して行う。</p>	